

平成29年

大仙市中学生議会

実施記録集



平成29年1月12日（木）

主催：大仙市議会・大仙市教育委員会・大仙市

【 目 次 】

大仙市中学生議会実施要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
大仙市中学生議会（大仙市中学生サミット）次第・・・・・・・・	3
平成29年 大仙市中学生議会 議事日程【第1号】・・・・・・・・	4
大仙市中学生議会 議席指定一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・	5
一般質問通告書	
一般質問者と質問通告内容・・・・・・・・・・・・・・・・	6～18
<開会式>	
千葉 健 大仙市議会議長あいさつ・・・・・・・・	19
<中学生議会>	
会議録（写真入り）・・・・・・・・・・・・・・・・	20～50
<閉会式>	
栗林次美 大仙市長 お礼のあいさつ・・・・・・・・	51
吉川正一 教育長 記念品の贈呈・・・・・・・・	52
中学生議員代表（茂木顕光）お礼の言葉・・・・・・・・	52

大仙市中学生議会実施要項

1 目 的

市議会の議場を利用し、未来を担う中学生が“議長や議員”となって、まちづくりや教育行政など、生徒に身近なテーマについて一般質問形式で質問、提案を行い、市政及び市議会への興味と理解を深めるとともに、その体験を実際の学校生活（生徒会活動等）や地域の行事などで役立てて行くことにより、総合的な学力の育成の一層の推進を図ります。

中学生議員からいただいた意見などは、これからのまちづくりの参考にしていきます。

学校関係者、中学生議員の保護者も傍聴に訪れることから、市議会にも関心がもたれ、今後の市議会の活性化にもつながるものと期待されます。

2 主 催

大仙市議会・大仙市教育委員会・大仙市

3 開催日及び開催場所

平成29年1月12日（木） 大仙市役所3階「本会議場」

4 日 程

<開会式>

～記録用写真撮影～

1. 開 会
2. 当局職員の紹介（議会事務局長）
3. 議長あいさつ（千葉健議長）
4. 中学生議長・副議長の紹介（議会事務局長）

午後1時00分

<中学生議会>

1. 開会（中学生議長）
2. 招集あいさつ（栗林次美市長）
3. 議席の指定（中学生議長）
4. 会議録署名議員の指名（中学生議長）
5. 会期の決定（中学生議長）
6. 一般質問 ※一般質問席に登壇 1校1質問

予定時間	1校～5校	午後1時15分～午後2時30分
	休 憩（議長の交替）	午後2時30分～午後2時45分
	6校～11校	午後2時45分～午後4時10分

7. 決議案
8. 閉会（中学生議長）

<閉会式>

1. 市長あいさつ（栗林次美市長）
2. 記念品の贈呈（吉川正一教育長）
3. 中学生議員 お礼のことば
4. 閉会式の閉会

午後4時30分

大仙市中学生議会 次 第

(大仙市中学生サミット)

【開会式】

～記録用写真撮影～

1. 開 会
2. 出席者の紹介
3. 大仙市議会議長あいさつ
4. 中学生議長・副議長の紹介

【中学生議会 議事日程】

大仙市長招集あいさつ		
第1	議席の指定	
第2	会議録署名議員の指名	
第3	会期の決定（1日間）	
第4	一般質問	
第5	決議案第2号	「笑顔と活気あふれるまちづくり」に関する決議

【閉会式】

1. 大仙市長あいさつ
2. 記念品の贈呈
3. 中学生議員 お礼のことば
4. 閉 会

平成29年 大仙市中学生議会 議事日程【第1号】

平成29年1月12日（木）午後1時 開 議

大仙市長招集あいさつ		
第1	議席の指定	
第2	会議録署名議員の指名	
第3	会期の決定（1日間）	
第4	一般質問	① 平和中学校 中沢 宏保・黒川梨々花
		② 大曲中学校 柴田 大和・小原 貴之
		③ 大曲西中学校 三浦 太陽・小松 怜
		④ 大曲南中学校 最上 純聖・佐々木愛香
		⑤ 中仙中学校 鈴木 太陽・藤田 愛心
		⑥ 豊成中学校 高橋 和久・後松 凜
		⑦ 協和中学校 茂木 顕光・武藤 隆晏
		⑧ 南外中学校 小松 滯央・伊藤 紗楽
		⑨ 仙北中学校 後藤 波瑠・草薨 夏輝
		⑩ 太田中学校 高橋 月乃・高貝ここあ
		⑪ 西仙北中学校 堀江 歩珠・星宮 大翔
第5	決議案第2号	「笑顔と活気あふれるまちづくり」に関する決議

大仙市中学生議会 議席指定一覧表

議席番号	中学校名	氏 名	備 考
1	西仙北中学校	堀 江 歩 珠	
2	〃	星 宮 大 翔	
3	平和中学校	中 沢 宏 保	
4	〃	黒 川 梨々花	
5	大曲中学校	柴 田 大 和	
6	〃	小 原 貴 之	
7	大曲西中学校	三 浦 太 陽	
8	〃	小 松 怜	
9	大曲南中学校	最 上 純 聖	
10	〃	佐々木 愛 香	
11	中仙中学校	鈴 木 太 陽	
12	〃	藤 田 愛 心	
13	豊成中学校	高 橋 和 久	
14	〃	後 松 凜	
15	協和中学校	茂 木 顕 光	
16	〃	武 藤 隆 晏	
17	南外中学校	小 松 濤 央	
18	〃	伊 藤 紗 楽	
19	仙北中学校	後 藤 波 瑠	
20	〃	草 薨 夏 輝	
21	太田中学校	高 橋 月 乃	
22	〃	高 貝 ここあ	

平成29年
大仙市中学生議会

一 般 質 問

(平成29年1月12日)

大仙市中学生議会

【一般質問者と質問通告内容】

No.	学校名	学年	氏名	質問通告内容	担当部
1	平和中学校	2年 2年	中沢 宏保 黒川梨々花	大仙市の活性化、若者の定着について	企画部
2	大曲中学校	2年 2年	柴田 大和 小原 貴之	大曲駅前施設やFMはなびを活用した地域活性化について	企画部
3	大曲西中学校	2年 2年	三浦 太陽 小松 怜	大仙市の緑化推進の状況と、市の花コスモスの利用拡大について	農林部
4	大曲南中学校	2年 2年	最上 純聖 佐々木愛香	大仙市の環境保護対策について	市民部
5	中仙中学校	2年 2年	鈴木 太陽 藤田 愛心	大仙市のボランティア活動について	健康福祉部
6	豊成中学校	2年 2年	高橋 和久 後松 凜	大仙市内の文化財のPRについて	生涯学習部
7	協和中学校	2年 2年	茂木 顕光 武藤 隆晏	大仙市の将来都市像を目指した都市計画事業について	建設部
8	南外中学校	2年 2年	小松 滯央 伊藤 紗凜	中学生の防災教育に関わる取組について	教育指導部
9	仙北中学校	2年 2年	後藤 波瑠 草薨 夏輝	花火を中核とする街づくりのための文化財の有効活用について	生涯学習部
10	太田中学校	2年 1年	高橋 月乃 高貝ここあ	大仙市の活性化について (地域の特産物を生かした商品開発とPRについて)	経済産業部
11	西仙北中学校	2年 2年	堀江 歩珠 星宮 大翔	大仙市アーカイブズ(公文書館)設置について	総務部

一般質問発言通告書

平成28年12月19日

午後1時38分 受付

発言事項	発言要旨
○大仙市の活性化、若者の定着について	①第1回の中学生議会で提案されたゆるキャラ「まるびちゃん」の効果は検証されているか。 ②今後の市の活性化のための若者の定着とその情報発信の方策は何か。

上記のとおり通告します。

平成28年12月19日

大仙市立平和中学校

2年 氏名 中沢 宏保

2年 氏名 黒川梨々花

大仙市中学生議会 議長 様

一般質問発言通告書

平成28年12月19日

午後1時38分 受付

発言事項	発言要旨
○大曲駅前施設やFMはなびを活用した地域活性化について	<p>大曲駅前に新たにできた施設のうち、大仙市市民活動交流拠点センターは学生が学習スペースとして十分活用しているが、ヒカリオは若者が集う魅力的な活用をしているとは言えない状況である。</p> <p>①若者が活用しやすい工夫をすることで、駅前が活気づくのではないかと思うがいかがか。</p> <p>②FMはなびで市内の学校の活動について、紹介をするなど若者がもっと関わることで、聴取者も増えると共に、活性化につながるのではないかと思うがいかがか。</p>

上記のとおり通告します。

平成28年12月19日

大仙市立大曲中学校

2年 氏名 柴田 大和
2年 氏名 小原 貴之

大仙市中学生議会 議長 様

一般質問発言通告書

平成28年12月19日

午後1時38分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
○大仙市の緑化推進の状況と、市の花コスモスの利用拡大について	①大仙市の緑化推進事業にはどのようなものがあるか。これまでの成果や課題についても教えていただきたい。 ②大仙市では各集落ごとに花壇を整備するなどして道行く人たちの目を楽しませている。大仙市の花『コスモス』を主要道路を中心に植えるなど、市の花をもっと活用した緑化推進はできないか。

上記のとおり通告します。

平成28年12月19日

大仙市立大曲西中学校 2年 氏名 三浦 太陽
2年 氏名 小松 怜

大仙市中学生議会 議長 様

一般質問発言通告書

平成28年12月19日

午後1時38分 受付

発言事項	発言要旨
○大仙市の環境保護対策について	①大仙市の主な環境保護対策についての取組と、その成果及び課題について教えていただきたい。 ②大仙市一斉、緑のカーテンプロジェクトなどのエコ活動に重点を置いた環境保護対策への取組はできないものか。

上記のとおり通告します。

平成28年12月19日

大仙市立大曲南中学校

2年 氏名 最上 純聖

2年 氏名 佐々木愛香

大仙市中学生議会 議長 様

一般質問発言通告書

平成28年12月19日

午後1時38分 受付

発言事項	発言要旨
○大仙市のボランティア活動について	大仙市のボランティア活動について、社会福祉協議会やさまざまなボランティア団体が必要としているボランティア活動は、 ①1年間でどのくらいの件数があるか。 ②それはどのような内容か。 ③中学生参加型のボランティア団体の育成を検討してはどうか。

上記のとおり通告します。

平成28年12月19日

大仙市立中仙中学校

2年 氏名 鈴木 太陽
2年 氏名 藤田 愛心

大仙市中学生議会 議長 様

一般質問発言通告書

平成28年12月19日

午後1時38分 受付

発言事項	発言要旨
○大仙市内の文化財のPRについて	①県内唯一の国宝をはじめ、魅力ある文化財に恵まれた大仙市を、どのようにPRしていくのか。 ②小・中学生にとっても分かりやすい文化財パンフレットの作成や配布、文化財見学が可能な施設の整備等を提案したいが、このことについての考えを伺いたい。

上記のとおり通告します。

平成28年12月19日

大仙市立豊成中学校

2年 氏名 高橋 和久
2年 氏名 後松 凜

大仙市中学生議会 議長 様

一般質問発言通告書

平成28年12月19日

午後1時38分 受付

発言事項	発言要旨
○大仙市の将来都市像を目指した都市計画事業について	大仙市の将来都市像は「人が生き人が集う夢のある田園交流都市」である。これを実現するために ①各地域に高齢者が安心して生活できる団地のような施設をつくってはどうか。 ②各地域ごとに学校、病院、商店等を1か所にまとめ、そこで住民が集えるようなコンパクトシティをつくってはどうか。

上記のとおり通告します。

平成28年12月19日

大仙市立協和中学校

2年 氏名 茂木 顕光

2年 氏名 武藤 隆晏

大仙市中学生議会 議長 様

一般質問発言通告書

平成28年12月19日

午後1時38分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
○中学生の防災教育に関わる取組について	①南三陸町の人々が小・中学生からお年寄りまで高い防災意識と知識をもっていることを知り、私たち中学生も地域の一員として、防災、減災についての意識を高め、具体的な方法を学ぶ必要があると感じた。 「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」において、中学生がこれまで以上に防災意識を高めるための具体的な施策と今後の計画について伺いたい。

上記のとおり通告します。

平成28年12月19日

大仙市立南外中学校

2年 氏名 小松 濤央
2年 氏名 伊藤 紗楽

大仙市中学生議会 議長 様

一般質問発言通告書

平成28年12月19日

午後1時38分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
○花火を中核とする街づくりのための文化財の有効利活用について	<p>①大仙市は花火を中核とする街づくりを進めている。しかし、仙北地域には、花火に関する産業はない。</p> <p>よって大曲地区以外の地域にも花火の輪を広げる必要があると考える。そのために旧池田氏庭園や古代の城柵「国史跡弘田の柵」などを有効活用し、一年を通して観光客に来ていただける花火パークを整備してはどうか。</p> <p>※花火パーク</p> <p>文化財の一角に全国花火大会等のDVDを流すなど花火を紹介するスペースを設けたり、可能であれば近くで花火を打ち上げたりして観光客や住民が集まり、交流できるような場所。</p>

上記のとおり通告します。

平成28年12月19日

大仙市立仙北中学校

2年 氏名 後藤 波瑠

2年 氏名 草薙 夏輝

大仙市中学生議会 議長 様

一般質問発言通告書

平成28年12月19日

午後1時38分 受付

発言事項	発言要旨
<p>○大仙市の活性化について (地域の特産物を生かした商品開発とPRについて)</p>	<p>①若者が中心となって大仙市の旧8市町村の特産物を生かしたレシピを考案し、その商品化や生産・販売にも若者が積極的に携わることを提案したいが、このことについての考えを伺いたい。</p>

上記のとおり通告します。

平成28年12月19日

大仙市立太田中学校

2年 氏名 高橋 月乃
1年 氏名 高貝ここあ

大仙市中学生議会 議長 様

一般質問発言通告書

平成28年12月19日

午後1時38分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
○大仙市アーカイブズ（公文書館）設置について	①大仙市では，平成29年5月に西仙北地区に，東北地方の市町村では初めてとなるアーカイブズ（公文書館）が設置される予定であるが、資料の項目に「学校」を入れてみてはどうか。

上記のとおり通告します。

平成28年12月19日

大仙市立西仙北中学校

2年 氏名 堀江 歩珠
2年 氏名 星宮 大翔

大仙市中学生議会 議長 様

<開会式>

◆ 千葉 健 大仙市議会議長あいさつ

改めて、皆さんこんにちは。そして、新年あけましておめでとうございます。

大仙市議会議長の 千葉 健 と申します。旧中仙町出身でございます。よろしくお願いいたします。さて、今回の中学生議会の開催にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

本日は、市内11中学校の代表である22人の中学生議員の皆さん、たいへん寒い中、また冬休み期間の貴重な中、ようこそお越しくださいました。市議会を代表しまして心から歓迎申し上げます。

また、傍聴席には保護者の皆さんをはじめ、学校関係者など多くの方々からお集まりいただき、「中学生議会」が盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

さて、皆さんが本日お集まりのこの場所は、大仙市議会の本会議場というところです。私たち市議会議員が市民を代表して、大仙市をさらに良くしていこうという思いから、市が行う様々な事業などに質問や提案を行い、決定する場所でもあります。したがって、大変重要で厳格な場所でもあります。

本日は、私たち市議会議員に代わって将来を担う中学生議員の皆さんが、同じ場所で、市議会と同じような方法で、大仙市のまちづくり、福祉、教育文化など身近な問題について質問していただき、さらに大仙市の将来の都市像について語っていただけるということで、たいへん楽しみに、そして意義深く感じているところであります。

「中学生議会」は、大仙市として、今回が2回目の開催であります。3年前に第1回目の中学生議会では、中学生議員から大仙市のゆるキャラの作成が提案され、その後、中学生からアイデアを募集した結果、「まるびちゃん」が誕生しております。

本日参加されております中学生議員の皆さんには、どうか今日のこの議会をきっかけに、議会のしくみやそのやり方、そして市役所の仕事などについて、実体験を通して知っていただき、理解を深めていただければ大変うれしく思います。

また、市議会といたしましても、皆さんから出された意見や提案を今後の大仙市のまちづくりの参考とさせていただきたいと思っております。

結びにあたりまして、本日の中学生議会が、参加されているお一人おひとりにとって貴重な体験の場となりますことをご祈念申し上げましてあいさついたします。

皆さん、元気いっぱい頑張ってください。終わります。



＜中学生議会＞

平成29年大仙市中学生議会会議録第1号

平成29年1月12日（木曜日）

議事日程第1号

平成29年1月12日（木曜日）午後1時開議

- 第1 議席の指定
- 第2 会議録署名議員の指名
- 第3 会期の決定（1日間）
- 第4 一般質問
- 第5 決議案第2号「笑顔と活気あふれるまちづくり」に関する決議案

出席議員（22人）

1番 堀江歩珠	2番 星宮大翔	3番 中沢宏保
4番 黒川梨々花	5番 柴田大和	6番 小原貴之
7番 三浦太陽	8番 小松 怜	9番 最上純聖
10番 佐々木愛香	11番 鈴木太陽	12番 藤田愛心
13番 高橋和久	14番 後松 凜	15番 茂木顕光
16番 武藤隆晏	17番 小松 滢央	18番 伊藤紗楽
19番 後藤波瑠	20番 草 弼夏輝	21番 高橋月乃
22番 高貝ここあ		

説明のため出席した者

市長 栗林次美	副市長 久米正雄
副市長 老松博行	教育長 吉川正一
代表監査委員 福原堅悦	総務部長 佐藤芳彦
企画部長 小松英昭	市民部長 高階 仁
健康福祉部長 小野地 淳司	農林部長 今野功成
経済産業部長 小野地 洋	建設部長 朝田 司
上下水道部長 進藤孝雄	教育指導部長 伊藤雅己
生涯学習部長 山谷喜元	病院事務長 富樫公誠

議会事務局職員出席者

局長 伊藤義之	参事 堀江孝明
主幹 齋藤孝文	副主幹 富樫康隆
主席主査 佐藤和人	

午後1時00分 開 会

○議長（堀江歩珠） 皆さん、こんにちは。

先ほどご紹介をいただきました、議長の西仙北中学校の堀江歩珠と



○議長（星宮大翔） 星宮大翔です。

○議長（堀江歩珠） 私たちのまち大仙市が希望に満ちた住みよいまちになるように、今日の中学生議会をがんばりたいと思いますので、中学生議員の皆さんのご協力をお願いいたします。

また、本日は、市長さん、市議会議長さんをはじめ、多くの関係者の皆さん

にご出席をいただき、ありがとうございました。

それでは、ただいまより、平成29年大仙市中学生議会を開会いたします。

市長さんから招集の挨拶があります。栗林市長さん。

【栗林市長 登壇】

○市長（栗林次美） 中学生議員の皆さんこんにちは。大仙市長の栗林次美です。

本日は、市議会及び市と教育委員会が共催する形で、大仙市として2回目の中学生議会であります。

未来を担う中学生の皆さんから議員として参集いただきまして、誠にありがとうございます。

この中学生議会は、「大仙市の未来は私たちがつくる」というテーマのもと実施されます。「中学生サミット」の取組を踏まえ、中学生の皆さんが議員となって市議会と同じ形式で開催されるものであります。

中学生の皆さんが普段から考えていることや、こうあるべきであるといった問題意識は、今後の大仙市のまちづくりを進めていく上で大変重要な意味をもっていると思っています。

本日の中学生議会が大仙市の未来を考える有意義な場となりますことを心から期待し、招集のあいさついたします。

本日は、どうぞよろしく願いいたします。

【栗林市長 降壇】



○議長（堀江歩珠） これより本日の会議を開きます。

○議長（堀江歩珠） 本日の議事は、議事日程第1号をもって進めます。

○議長（堀江歩珠） 日程第1、議席の指定を行います。議席は、議長において指定いたします。議席番号と氏名を職員の方に読み上げていただきます。

【事務局職員 議席番号、学校名、氏名を読み上げる。】

○議長（堀江歩珠） ただいま、読み上げていただいたとおり、議席を指定いたします。

日程第2、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、議席番号5番、大曲中学校、柴田大和さん、7番大曲西中学校、三浦太陽さん、10番大曲南中学校、佐々木愛香さん、以上3名の方々にお願いいたします。

○議長（堀江歩珠） 日程第3、会期の決定を議題といたします。お諮りいたします。中学生議会の会期は、本日1日といたしたいと思っております。これにご異議ございませんか。

【異議なし】

○議長（堀江歩珠） ご異議なしと認めます。よって会期は本日1日と決定いたしました。

○議長（堀江歩珠） 日程第4、一般質問を行います。一般質問は通告書どおり、学校ごとに順次行います。順次、質問をお願いします。

最初に平和中学校、3番中沢宏保さんと4番黒川梨々花さんをお願いします。

○平和中学校（中沢宏保、黒川梨々花） はい、議長3番。はい、議長4番。

【平和中学校 対面式演壇へ登壇】

○議長（堀江歩珠） それでは、4番、黒川さん、質問をお願いします。

○平和中学校（黒川梨々花） 平和中学校、黒川梨々花です。企画部に大仙市の活性化と若者の定着に関する事を質問します。



今、大仙市では人口が減少し、少子高齢化が進んでいます。その原因の一つに、都会や市外へ転出する若者の増加や、市外からの転入者が少ないことが挙げられます。市の活性化のために、第1回中学生議会で提案されたゆるキャラとして「まるびちゃん」が実現しましたが、その効果についてはどのように検証されているのでしょうか。

私たち中学生は、市の活性化のためには若者の定着と市外からの転入者の増加こそが不可欠と考えます。大仙市は花火、大綱引き、500歳野球など一時的な集客力のすばらしいイベントが有名ですが、若者の定着や転入者を増やすために市がどんな取組をしているのか、私たち中学生や高校生、その家庭にはなかなか情報が届いていないと思います。このことについて、私たちなりに次の2点を考えてみました。

一つ目として、若者が働きがいのあるまちづくり、暮らしやすい福祉のまちづくりの構想を中学生や高校生に分かりやすく情報発信する。

二つ目として、花火以外の名所や伝統文化、特産品などの観光やイベント情報の発信にチラシやポスター配布に加え、SNS、ツイッターやフェイスブック等を活用する。

以上のことから、働く場所、福祉の充実などの若者の定着に向けた市の取組について現状と予定、そして若者に情報を届ける方法について教えていただければ幸いです。よろしくお願ひいたします。

○議長（堀江歩珠） 質問が終わりました。答弁をお願いします。小松企画部長さん。

【企画部長 登壇】

○企画部長（小松英昭） 企画部長の小松です。どうぞよろしくお願ひいたします。それでは、平和中学校の中沢さん、それから黒川さんのご質問にお答え申し上げます。

はじめに、平成26年1月9日開催の第1回中学生議会におきまして、市のゆるキャラを作ってはどうかと、ご提案があり、それに答える形で、中学生の皆様からデザイン案をご応募いただき、平成27年の3月22日、「まるびちゃん」、誕生した大仙市マスコットキャラクター「まるびちゃん」であります。同じ年の8月に二つ目の「まるびちゃん」、これはエアバージョンで、空気で膨らむやつなんですけれども、これを作りまして、現在二つの「まるびちゃん」で市内外の様々なイベントに参加して、本市のPRに努めているところでございます。

活動の実績といたしましては、市内の学校行事や3年前に始まりました大曲エキまつり、それから秋の稔りフェア、友好交流都市である神奈川県座間市において開催された「座間市大風まつり」や東京スカイツリー内で行われました観光PR、それから東京JR有楽町駅前で開催されました「ふるさと物産フェア」など、市内外で幅広く活動していただいております。

そのほか、本市の広報や各種印刷物への掲載、メモ帳、マスクングテープ、缶バッジ、お菓子のデザインに採用されるなど商業活動にも大きく波及しているところでございます。

また、初めて参加をいたしました「ゆるキャラグランプリ2015」における人気投票では全国から1,727のゆるキャラがエントリーいたしましたけれども、その結果、759位と中位の結果になってございます。残念ながら上位進出はかないませんでしたけれども、それでも全国に本市をPRすることができ、中学生の皆さんにご提案をいただきました「ご当地キャラクター」を作成した効果は、少なからずあったものと考えております。

今後も、市内外で大仙市マスコットキャラクター「まるびちゃん」を活用して本市のPRに努めてまいりたいと考えております。中学校の授業にも、さらに積極的に活用していただければなというふうに思います。

次に、若者の定着と情報発信の方策についてのご質問をいただきました。

市では、若者定着に向けた取組といたしまして、地域行事への参加や、企業・施設等での見学・体験など、地域と関わる活動を通じてふるさとを愛する心を育て、地域の将来を担う人材の育成を目的とした「大仙ふるさと博士育成事業」を行っております。加えて、今後は、子どもの頃から、地域の伝統芸能や祭りなどに参加して世代間交流を図りながら地域を愛する心を育てていくため、現在4名で活動していただいております集落をサポートする方として、集落支援員を設けております。この方達や地域おこし協力隊、総務省の制度なんですけれども、今年1月1日付けで、お一人、それから、今年の4月1日にもう1名採用する予定でありますけれども、この2名合わせた6名の方による地域応援活動や伝統的な地域行事の継続に対する市としての支援に、これまで以上に力を入れまして、事業を推進することとしております。

また、働く場所の確保として、若者が自ら会社を立ち上げる、いわゆる業を起こすという起業です。起業することなどに関する支援を強化するため、事務所や店舗の改装などに必要な経費の一部を助成する新たな支援策を検討しております。さらには、移住や仕事を開始するまで、また後継不足等によって、他の方に事業の引継ぐ、受け継ぐ場合、この引き継ぎまでのプログラムを作るとともに、地域課題の解決や地域資源を活用した地方での仕事の立ち上げに関することも盛り込みながら、移住してくださる方の要望に沿った対応ができるような内容をまとめたガイドブックの作成など相談体制の整備を行なおうとしております。

なお、これら情報発信に関する取組につきましては、本市の知名度向上を目的としたプロモーション動画を地域の皆さんと一緒に作成していくほか、市のホームページやフェイスブック、ブログ、それから現在作成中の移住・定住ハンドブック、各種イベントなどにおけるPRなどを通じ、市

民の皆さんをはじめ、市外・県外にも広く大仙市の魅力をPRしていくことで「大仙ファン」を増やし、移住・定住の促進を図ってまいりたいと考えております。以上であります。

【企画部長 降壇】

○議長（堀江歩珠） 再質問はありませんか。はい、3番、中沢さん、再質問をお願いします。

○平和中学校（中沢宏保） はい。平和中学校の中沢宏保です。再質問をします。



今教えていただいた市の取組の中で、私たち中学生がお手伝いできることがありましたら、教えていただきたいと思います。

また、首都圏一極集中、人口流出に対する活性化の問題は全国的な課題ではあります。他県や他の自治体での成功例にも学ぶべきところはあると思いますが、何か参考にしようとしていることはありますか。

○議長（堀江歩珠） 再質問に対する答弁をお願いします。栗林市長さん。

【栗林市長 登壇】

○市長（栗林次美） 再質問にお答えをいたします。

はじめに、中学生の皆さんに望むこととしては、まずは地域の伝統芸能やお祭り、イベントなど地域行事へ積極的に参加していただき、地域の魅力を再発見しながら、地域活動の楽しさを感じ取り、地域を愛する心を育てていただきたいと思います。併せて、発見した地域の魅力については、各中学校のホームページなどを通じて、市民をはじめ市外、県外に広く発信していただくことも、直接的ではなくても、市の取組への十分な手助けになるものと考えております。

なお、今年4月には、世界各国の花火関係者が一堂に会し、花火の研究成果の発表を行うなど、この「国際花火シンポジウム」が大仙市で開催されます。その前日祭として、4月23日に大曲ヒカリオ広場において、プレイイベントが行われます。このイベントには、多くの市民の皆さんと一緒に外国人の方々もたくさんお見えになりますので、小・中学生の皆さんにもぜひ参加いただき、交流を深めていただくとともに、当日は、中学生の皆さんには、案内役等もかかっていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

次に、再質問の2点目について、お答えいたします。昨年10月に、国勢調査の結果が公表されましたが、我が国の総人口は1億2,709万5千人で、5年前の国勢調査に比べて96万3千人減少しており、国勢調査においては、1920年の国勢調査開始以来初めての減少となりました。このような中で、人口が増加したのは首都圏などの8都県のみで、39の道府県で人口が減少し、秋田県については減少率が一番大きく、マイナス5.8%、6万3千人の減少となっています。

本市を含め、全国の自治体が今、「人口減少問題の克服と地方創生の実現」を掲げて、懸命に取り組んでいます。全国には、人口減少対策が功を奏し、人口が増えたとする自治体も見受けられることから、学ぶべき点が多々あると考えております。現在、大仙市では若手職員を中心にするプロジェクトチームをつくりまして、人口問題対策に効果的な新たな施策がないか検討を行っているところであります。他の自治体の事例を大いに参考にしながら、本市の実情に合った施策の検討を進めていきたいと考えています。

なお、活性化という問題を考えるときは、人口は基準の一つではありますが、人口の増減だけで成功か失敗かを判断をすることはできないのではないかと考えています。何をもって成功とするかは地

域によって違うかもしれませんが、人々に幸せ感を与える、仮に人口が少しずつ減ったとしても、人々に幸せ感を与える、そういう地域づくり、自治体にしていかなければならないと思います。

【栗林市長 降壇】

○議長（堀江歩珠） これにて平和中学校、3番中沢宏保さんと4番黒川梨々花さんの一般質問を終わります。

【平和中学校 自席へ】

○議長（堀江歩珠） ここで、議事の進行を星宮大翔さんと交代するため、暫時、休憩いたします。
休憩 午後1時36分
再開 午後1時37分

○議長（星宮大翔） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。ここからの議事を進行します、西仙北中学校の星宮大翔です。よろしくお願いいたします。

一般質問を続けます。

次に、大曲中学校、5番柴田大和さんと6番小原貴之さんをお願いします。

○大曲中学校（柴田大和、小原貴之） はい、議長5番。はい、議長6番。

【大曲中学校 対面式演壇へ登壇】

○議長（星宮大翔） それでは、6番小原さん、質問をお願いします。

○大曲中学校（小原貴之） 大曲中学校2年、小原貴之です。企画部に大曲駅前施設やFMはなびを活用した活性化について質問します。



大仙市はもちろん、秋田県全体で深刻な問題となっている人口減少を何とかくい止めなければならないと日頃考えています。大仙市民一人一人地域への郷土愛を高めることが人口減少問題の解決策につながるのではないかと考えています。特に私たち若い世代がふるさとを愛する気持ちを高めなければならないと思います。

大曲駅前に新たにできた施設のうち、大仙市市民活動交流拠点センターは学生が学習スペースとして十分活用していますが、ヒカリオは若者が集う魅力的な活用をしているとは言えないと思います。若者が活用しやすい工夫をすることで、駅前が活気づくのではないのでしょうか。例えば若者が企画するイベントの開催を積極的に行ったり、多くの人が見に行きたくなるような花火のイルミネーションの装飾、花火の街大曲の象徴となるモニュメントの設置などはどうでしょうか。それに加え、設置されている大型モニターを活用し、学校行事等の様子を紹介するビデオの上映会を行うこともどうでしょうか。また、2015年から放送が開始されたFMはなびの活用についても、大仙市内各中学校の合唱の様子を流したり、学校紹介、行事のお知らせ等をする番組制作をしていただくことで、小・中校生にも認知度が高まるのではないのでしょうか。

私たち大曲中学校生徒会は、地域の方々への連携を特に重視しています。そして何かできることはないかと日頃考えています。その取組によって地域が活性化し、生徒の皆が郷土愛を深めることができればと思っています。前述したようなヒカリオの活性化に向けた事業を行う場合、生徒会ではデザイン等の考案する形で協力したいと思います。また、大型モニターを活用したビデオ上映会、FMは

なびの番組制作にも様々な形で協力できればと考えています。

このことについて、ご意見をお聞かせください。

○議長（星宮大翔） 質問が終わりました。答弁をお願いします。小松企画部長さん。

【企画部長 登壇】

○企画部長（小松英昭） それでは、大曲中学校、小原さん、柴田さんのご質問にお答え申し上げます。

はじめに、大曲駅前を活気づけるため若者が活用しやすくする工夫についてでございます。大曲ヒカリオは、平成27年9月に完成した大曲通町地区第一種市街地再開発事業により整備されたエリアの総称でございます。大曲厚生医療センター、市民活動交流拠点センター、Anbee大曲など4棟で構成される北街区と、広場を中心に大曲商工会議所、健康福祉会館、認定こども園、駐車場、この4棟が配置されている南街区の2つの街区から構成されております。

大曲ヒカリオの整備には、大きく分けて二つの目的がございました。一つめは、大仙市・仙北市・美郷町の住民14万人の念願であった地域の中核病院・仙北組合総合病院の改築であります。老朽化していた病院を駅前地区内で移転改築するとともに、その跡地を有効に活用し、市民の皆さんが安心して暮らせるまちづくりを進めるということでもあります。郊外に移転する病院が多いなか、公共交通の起点、あるいは終点があるまちなかに病院を残し、福祉施設や健康施設などの市民生活を支える公共施設を集約できたことは、人口減少・長寿社会が進行する時代にあって、今、そして、これからを生きる市民のみなさんが、安心して暮らせるコンパクトなまちづくりにつながる取組であったと思っております。二つめでありますけれども、北街区の、今現在の北街区のところに、従前はジョイフルシティという大型店舗がございました。2008年10月に閉店をしております。皆さんがおそらく5歳位の時だったと思います。覚えている方は、覚えているかもしれません。このジョイフルシティの閉店によるまちの空洞化を解消し、新たなにぎわいを創り出すことによりまして、中心市街地を活性化するという大きな目的が二つめであります。また、南街区の広場については、市民の憩い、交流の場としての活用のほか、花火通り商店街や近隣で行われているイベントなどとの連携、連動による新たなにぎわいを創る目的で整備したものであります。

ご質問の大曲ヒカリオの活用につきましては、昨年3月に大曲地域協議会という市民の皆さんで構成される会がございます。まちづくりに関しての会がございますけれども、この協議会が主催をして、若い世代が積極的にイベント運営に参画して行った「ヒカリオLIVEイベント～for blue～」や、これまで市役所大曲庁舎駐車場をメイン会場に行っておりました「秋の稔りフェア」を今年度から会場を移し、花火通り商店街まで広げて開催をいたしております。これらのイベントで行われたステージ発表では、若者の活動を披露する場として、イベントを大いに盛り上げていただいております。なお、「for blue」については、この3月26日、日曜日でありますけれども、継続開催する予定となっておりますし、先ほど、市長が答弁の中で申し上げましたけれども、4月23日には、国際花火シンポジウムのプレイメントも計画されているところでございます。

今後も、大曲ヒカリオを会場とした若者が参加し集まるイベントを官民間問わず実施していただき、賑わいのあるスポットとして定着するようにしてまいりたいと考えております。

また、ヒカリオイベント広場を利用しやすくする一つの方策として、市では、地域の活性化を目的としたイベントや行事に対しましては、利用料を免除する制度を設けております。商工団体など公共性の高い団体をはじめ、中学生、高校生の生徒会や部活動を主体に利用する場合も利用料を免除しているところであります。

今回のご質問で、ヒカリオ広場の利活用に関しましては、曲中の皆さんから、いろいろと積極的な

提案、ご提言をいただきました。本当にありがとうございます。市といたしましては、今回いただいたご提案を参考にさせていただくなど、今後も若い方の意見を取り入れながら広場の利用を促進してまいりたいと考えております。

ご質問の2点目は、FMはなびの活用についてでございます。FMはなびは、まちづくりに関する様々な事業を市と一緒にしている会社「株式会社TMO大曲」が運営しております。一昨年8月の開局以来、市民に身近な放送局として日々魅力ある番組作りに取り組んでいるところであります。

ご質問の学校紹介などの放送につきましては、「スクールリポート」というコーナーを生放送の中に設け、市内の小・中学校や高校を対象に、児童生徒に生出演していただき学校行事の紹介や部活動の活動報告などを行っていただいております。

市といたしましては、行政からのお知らせや市議会だよりの情報発信にFMはなびを積極的に活用してございまして、今行われているこの中学生議会も生放送で放送しております。

また、地震や水害などの災害が起きた際に備えまして、緊急放送を行う設備を設置しているほか、その緊急放送を受信できる防災ラジオも導入するなど、市民の皆様が安心して暮らせるよう情報発信体制を整えているところであります。今後はFMはなびと連携しながら、ご提案いただいた学校からの情報や地域イベントなど地域情報を積極的に発信し、若い世代の方々からも親しまれるコミュニティFM放送になるように努めてまいりたいと考えております。以上であります。

【企画部長 降壇】

○議長（星宮大翔） 再質問はありませんか。はい、5番柴田さん、再質問をお願いします。

○大曲中学校（柴田大和） はい。大曲中学校の柴田大和です。再質問をします。



大曲駅前施設やFMはなびを活用した様々な取組を行ったとしても、市民に十分周知されなければ見に来る人や放送を聴く人が少なく、効果が無いまま終わってしまうことが考えられます。市民に向けてこの取組について伝える方法として、広報に載せることが考えられますが、広報の他により多くの方に伝える効果的な方法として、どのようなことが考えられるか、ご意見をお聞かせください。

○議長（星宮大翔） 再質問に対する答弁をお願いします。栗林市長さん。

【栗林市長 登壇】

○市長（栗林次美） 柴田さんの再質問にお答えします。

大仙市では、市に関する話題を市民の皆さんに広くお伝えするための手段を三つもっております。

その一つは、紙に印刷され、市内の全ての家庭に配られる「広報紙」。もう一つは、ラジオ電波を使って情報を声でお知らせするコミュニティFM「FMはなび」。そしてもう一つ、インターネットを使って情報を広める「ホームページ」「フェイスブック」です。

質問の大曲駅前施設やFMはなびを活用したさまざまな取組は、これまで主に広報紙の中で紹介しておりました。特にFMはなびについては、毎月16日に発行している広報だいせん日とお知らせ版の「FMはなび通信」という記事を連載し、定期的に番組の内容を紹介するなどして市民の皆さんに関心をもってもらえるよう努めております。

また、FMはなびでも自らの活動を市民の皆さんに広く理解していただくため、独自に広報紙を発

行しているほか、フェイスブックページを運営し日々更新しております。

市としては、スマートフォンやタブレット端末の普及でインターネットが市民生活に身近なものとなっていることから、今後は広報紙を情報発信の柱の一つとしつつも、ホームページやフェイスブックなどの内容の充実に努め、情報伝達を図ってまいりたいと思っております。

【栗林市長 降壇】

○議長（星宮大翔） これにて大曲中学校、5番柴田大和さんと6番小原貴之さんの一般質問を終わります。

【大曲中学校 自席へ】

○議長（星宮大翔） 次に、大曲西中学校、7番三浦太陽さん、8番小松怜さんをお願いします。

○大曲西中学校（三浦太陽、小松怜） はい、議長7番。はい、議長8番。

【大曲西中学校 対面式演壇へ登壇】

○議長（星宮大翔） それでは、8番小松さん、質問をお願いします。

○大曲西中学校（小松怜） 大曲西中学校の小松怜です。農林部に大仙市の緑化推進の状況と市の花コスモスの利用拡大に関することを質問します。



大仙市といえば「大曲の花火」が全国的に有名で、毎年70万人の観覧者が訪れます。人が多く集まるということはそれだけゴミの量も多く、毎年100万トンのゴミがでると聞きました。

本校は花火会場の傍であり、毎年「大曲の花火」の翌日に「花火の里クリーンアップ」という活動を行っています。これは小・中学生とその保護者がそれぞれの地域で行うものです。この活動を継続していく中で、嬉しいことに年々拾うゴミの量が減っているように感じます。

また、本校は花壇づくりや農園活動が盛んです。農園では学校の敷地内にある畑で、ネギや里芋、サツマイモなどを全校生徒で植えて育てています。花壇への水やりや除草作業、農園の収穫作業など、土に触れる活動を通して、私たちは、この美しいふるさとの自然や緑を守ることの大切さを感じています。ここ大仙市は緑豊かな地域で、花火同様、四季折々の美しい景色に出会うことができます。そこで、大仙市での緑化推進への取組と、その成果・課題について教えていただきたいと思えます。

さらに、大仙市では各集落ごとに花壇を整備するなどをして、道行く人たちの目を楽しませています。そこで提案ですが、大仙市の花「コスモス」を活用した緑化推進はできないでしょうか。

○議長（星宮大翔） 質問が終わりました。答弁をお願いします。今野農林部長さん。

【農林部長 登壇】

○農林部長（今野功成） 大曲西中学校、三浦さん、小松さんの質問にお答えします。

質問の、緑化推進の状況とコスモスの利用拡大についてですが、始めに緑化推進事業につきましては、市では緑化事業を推進するため、平成20年度に市内各地域で緑化活動に取り組まれている団体の代表者などに委員をお願いして「大仙市緑化推進委員会」を組織しております。この委員会では、緑化活動の企画や緑の羽根募金運動として、市内の学校や企業、家庭から募金をいただき、それを財源にして様々な緑化事業に取り組んでいます。

今年度の学校緑化事業としては、市内の小学校、中学校、高等学校、合わせて36校で学校花壇への植栽などが行われています。大曲西中学校では、マリーゴールドとサルビアの苗の購入などに活用されています。

これまでの学校緑化事業としては、太田認定こども園の開園に合わせ、記念植樹用の苗木購入費用の助成を行ったほか、西仙北小学校では、放牧場の周囲にサクラの苗木を植える体験活動を実施しています。また、昨年10月には、公益社団法人「国土緑化推進機構」などが主催する全国キャラバン隊による「森の教室」を西仙北地域みつば保育園で開催し、園児と一緒に「どんぐり」を植える体験を行い、森林の役割や大切さを伝えております。また、市内各地域で開催される秋祭りでは、各地域順番にサクラの苗木を無償でお配りし、家庭でも木や緑に対する関心を高めていただくような取組も行っております。

これらの活動を通じて、学校の校庭が花できれいに整備されることにより、子どもたちの心がいやされる効果があるほか、花や木を大切に育てる心が育まれてきたことが成果の一つと考えています。また、私たちの生活は森林と深く関わってきたことから、春にはお花見ができる場所が整備され、また、夏には森林浴の場として、森林公園の整備が進んだことなどもこれまでの成果と捉えています。森林がもつ様々な役割や大切さを次の世代に伝える取組をこれからも着実に進めていき、緑化推進事業の成果を上げていきたいと思っております。

次に課題ですが、木を植えた後は木の周りに生えた草を刈る下刈り作業など、木が成長するまでの維も管理が必要になってきます。この管理に必要な人手や予算の確保が一番の課題と捉えておりますが、各地域では、この課題を解決してくれる取組も行われており、中仙地域では、「八乙女山を守る会」が地元のサクラを守る活動をしております。また、大曲地域内小友地区の余目公園では、「余目公園愛護会」や「萬桜育友会」などが主体となって公園の維も管理やサクラの植栽などを行っております。市としてもこのような活動を今後も支援していきたいと考えております。

次に、市の花コスモスを活用した緑化推進についてですが、コスモスは平成18年に大仙市の花として制定されています。8枚の花びらが整然ときれいに並び揃っている姿は、8市町村が一つの大きな輪になったことを象徴しています。調和、まごころという意味をもっていますが、見た目と違い大変力強い花で、将来に強いまちづくりを創造する大仙市にふさわしい花です。

現在コスモスを活用した取組としては、南外地域の国道105号線で地域住民の手により道路の路肩部分に1.3キロに渡ってコスモスを植栽し、地域の景観向上を図り、道行く人たちに楽しんでい



ただける取組などがあります。また、農地や農業施設を守るための国の事業を活用して農業者や自治会で構成された市内139組織では、農村環境を守る活動として地域の花壇や休耕田を活用した花の植栽などを実施しており、その内9組織ではコスモスを植えて景観の向上を図っています。

今後は、様々な機会を捉えて広く市民の皆様や各種団体に呼びかけて、市の花であるコスモスを市内の多くの場所で植えていただくよう、市でも積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

【農林部長 降壇】

○議長（星宮大翔） 再質問はありませんか。はい、7番三浦さん、再質問をお願いします。

○大曲西中学校（三浦太陽） はい、大曲西中学校の三浦太陽です。再質問をします。

市の花、コスモスをもっと地元の人に知ってもらうためにも、秋以外にも植えるべきだと思います。コスモスというと、秋に咲くイメージですが、現在はいろいろな品種があり、6月位から咲く品種もあるそうです。それらを植えることで、長い期間コスモスで道行く人たちを楽しませることができるのではないのでしょうか。

○議長（星宮大翔） 再質問に対する答弁をお願いします。久米副市長さん。

【久米副市長 登壇】

○副市長（久米正雄） 再質問にお答え申し上げます。

はじめに、三浦さん、小松さんのご提案は、市の花コスモスを広くこの市内に広めるため、市が管理する施設や学校が率先して取り組んでどうかとの提案だと受け止めております。大変良い提案だと思いますので市としては、今後、積極的に市内の施設や学校に呼びかけて、コスモスを植える取組を進めていきたいというふうに考えております。

取組を進めるにあたっては、それぞれの施設では、花壇の有無やその広さ、また植えた後の管理の方法に違いがありますので、施設の状況と各施設・学校からの要望を考えあわせながら、コスモスを植える施設が、年々増えるように取り組んでいきたいと思っております。

次に、コスモスの種を配布する取組についてであります。今回のご提案を大仙市緑化推進委員会の佐藤会長さんにお伝えしたところ、会長さんは大変喜んでおられまして、皆さんからのご提案に対しては、積極的に応援していきたいとお話をいただいております。市でも緑化推進委員会と歩調を合わせて、市内の多くの場所で、多くの市民の皆様が市の花コスモスを植えていただけるよう、取り組んでいきたいと思っております。

また、農地を守る取組をしている組織に対しても花壇や休耕田へのコスモスの植栽を呼びかけるなど、多くの団体の協力も得ながらコスモスの輪を広げていきたいというふうに思っております。以上です。

【久米副市長 降壇】

○議長（星宮大翔） これにて大曲西中学校、7番三浦太陽さん、8番小松怜さんの一般質問を終わります。

【大曲西中学校 自席へ】

○議長（星宮大翔） 次に大曲南中学校、9番最上純聖さん、10番佐々木愛香さんをお願いします。

○大曲南中学校（最上純聖、佐々木愛香） はい、議長9番。はい、議長10番。

【大曲南中学校 対面式演壇に登壇】

○議長（星宮大翔） それでは、10番佐々木さん、質問をお願いします。

○大曲南中学校（佐々木愛香） 大曲南中学校の佐々木愛香です。市民部に大仙市の環境保護対策について質問します。

大曲南中学校区では、小・中学校が連携して環境教育を中心とした、E S D、も持続可能な開発のための教育に取り組んでいます。

環境問題への取組として、エネルギーの観点では、ゴーヤを利用した「緑のカーテンプロジェクト」に小・中両方で取り組んでいます。さらに中学校では、風力発電所やゴミ処理施設を見学しました。また、食育の観点として有機肥料を用いた野菜の栽培、省エネクッキング出前授業を行いました。さらに、環境理解の観点として、海外のユネスコスクールとの交流から海外の環境保護を学ぶ取組など



も行っていきます。

小学校が主体として活動しているものでは、服のリサイクルを行う「服のカプロジェクト」というエコ活動があります。「『何とかしなければ』という思いを、行動につなげられる人を目指そう」を合い言葉に、児童生徒一人一人が主体的に頑張っています。

今年度から廃止になってしまいましたが、大仙市では、中学生向けに「環境家族宣言」、小学生向けに「子どもエコチャレンジ」という環境に対する事業を行っていました。そのほかにも様々な取組がなされていることと思いますが、現在の大仙市の主な環境保護対策についての取組と、その成果と課題について教えていただきたいと思っています。併せて、大曲南中学校が行っているような、緑のカーテンプロジェクトなどの取組を大仙市一斉でできないかをお聞き

したいです。

○議長（星宮大翔） 質問が終わりました。答弁をお願いします。高階市民部長さん。

【市民部長 登壇】

○市民部長（高階仁） 大曲南中学校、最上さん、佐々木さんの質問にお答え申し上げます。

はじめに、大仙市の環境保護対策についての取組につきましては、これまで、環境家族宣言、子どもエコチャレンジなど、市民参加型の事業を実施してまいりましたが、エコに対する市民の高い意識により多くの皆様に参加いただき、当初の参加目標を達成したことから、事業実施から5年が経過し、エコへの取組が市民に定着してきたことなどから平成27年度をもって一旦休止している状況であります。

現在、市では地球温暖化の原因とされている二酸化炭素を大量に排出する化石燃料、こちらから太陽光など自然の力を活用して、枯渇する心配がなく繰り返し使うことのできる再生可能エネルギーへの転換を進めております。

これまで、市内の中学校や市役所庁舎など13施設への太陽光発電システムの導入、市内の街路灯9,000灯のLED化、家庭用LED照明機器購入費の一部助成のほか、西仙北地域の温泉施設ユメリアには温泉熱を利用したヒートポンプを設置いたしまして、給湯に使用する灯油の削減に努めているところであります。

また、市有地を活用したメガソーラー発電事業を行うため「大仙市柏台太陽光発電所」を建設し、平成27年12月から発電を開始しております。この発電所の1年間の発電量は一般家庭約824世帯分に相当いたしまして、大幅な二酸化炭素排出量の削減に貢献しているところであります。

さらに、発電した電気を売電し得られた利益を「大仙市地球温暖化対策基金」に積み立て、世界的な課題である地球温暖化の防止に向けた将来の環境保護対策に活用していきたいと考えております。

次に、大仙市一斉の緑のカーテンプロジェクトの実施につきましては、各家庭の立地条件などによっては、実施が困難な場合もあることや、節電については、夏の間だけでなく1年を通して取り組むべきものであると考えておりますので、緑のカーテンのほかライトダウンキャンペーンなど様々な取組を市が広報等で紹介し、各家庭では、その中から最も取組やすい節電対策を選択し、実行していただくなどの手法がより有効ではないかと考えております。以上でございます。

【市民部長 降壇】

○議長（星宮大翔） 再質問はありませんか。はい、9番最上さん、再質問をお願いします。

○大曲南中学校（最上純聖） はい、大曲南中学校の最上純聖です。再質問をします。



「チャレンジデー」というスポーツによる住民の健康づくり、地域の活性化を目的として世界中で実施されている住民総参加型イベントがあります。これの環境版として、例えば一人一人が自分で決めたエコ活動に取り組む「大仙エコチャレンジデー」を作ることにはできないでしょうか。

○議長（星宮大翔） 再質問に対する答弁をお願いします。老松副市長さん。

【老松副市長 登壇】

○副市長（老松博行） 再質問の「大仙エコチャレンジデー」の創設について、お答え申し上げます。

現在、実施日などを定めて取り組んでいるエコ活動といたしましては、4月の全市一斉クリーンアップ、夏至の日のライトダウンキャンペーンなどがあり、これらの取組については、引き続き実施してまいりたいと考えております。環境保護への取組は、多岐にわたっており、これで十分というものではありません。

市では、先ほどお話した全市一斉クリーンアップやライトダウンキャンペーンのほか、子どもたちが魚や昆虫と触れ合うことで自然保護の大切さを学ぶ「夏休みこども環境学習」や、地球温暖化の防止とごみの減量化に向けた「NOレジ袋キャンペーン」などを実施しており、さらに、社会的な課題となっている食べ残しなどの食品ロスの削減に取り組むこととしております。

今後も市民の高い環境意識を維もしていくとともに、さらに取組を広げていくために、ご提案のありました全市民が一体となって節電などのエコ活動に取り組む「大仙エコチャレンジデー」の実施について、検討してまいりたいと考えております。以上です。

【老松副市長 降壇】

○議長（星宮大翔） これにて大曲南中学校、9番最上純聖さん、10番佐々木愛香さんの一般質問を終わります。

【大曲南中学校 自席へ】

○議長（星宮大翔） 次に中仙中学校、11番鈴木太陽さんと12番藤田愛心さんをお願いします。

○中仙中学校（鈴木太陽、藤田愛心） はい、議長11番。はい、議長12番。

【中仙中学校 対面式演壇に登壇】



○議長（星宮大翔） それでは、11番鈴木さん、質問をお願いします。

○中仙中学校（鈴木太陽） 中仙中学校の鈴木太陽です。健康福祉部に大仙市のボランティア活動について質問します。

平成28年3月に大仙市から出された「大仙市人口ビジョン～こころをつなぎ希望にみちた未来の創造へ～」を見ますと、市の人口は平成17年から平成27年までで1万718人減少しており、その後平成37年には7万1,220人になり、現在の人口から2万2,132人減少する見込みのようです。高齢者の割合もどんどん増え、平成52年には、65歳以上の老年人口が42.9%で、1

5歳から64歳までの生産年齢48.3%にほぼ並ぶ見込みのようです。このように大仙市では、高齢化がますます進むものと考えられます。その上、平成28年度市民による市政評価調査結果によると健康福祉分野では、さらに推進すべき取組として、「高齢者福祉の充実」が取り上げられています。

私たち中仙中学校では、毎年、桜寿苑や八乙女荘に赴き、ボランティアを行っています。去年も8月にボランティアに行きました。施設の利用者の方からは「楽しかった」「また来てほしい」と言っていただきました。高齢者の皆さんは、こういったボランティアをもっと望んでいるのではないのでしょうか。

そこで、大仙市のボランティア活動について、社会福祉協議会や様々なボランティア団体が必要としているボランティア活動は、1年間でどのくらいの件数があるのか、そしてそれはどのような内容なのか教えてください。

また、私たち中学生が協力するだけでなく、正式にメンバーとして活動できるよう、中学生参加型のボランティア団体の育成を検討してみたいか教えてください。

○議長（星宮大翔） 質問が終わりました。答弁をお願いします。小野地健康福祉部長さん。

【健康福祉部長 登壇】

○健康福祉部長（小野地淳司） 中仙中学校、鈴木さん、藤田さんの質問にお答えします。

大仙市内のボランティア活動に関して、1年間にどのような団体がどれくらいのボランティア活動をしているのか、また、その内容も含めてのご質問ですが、正確な数字は掴めていないのが現状であります。その理由として、ボランティア活動には、募集や依頼に応じて行われるものと自主的に行われるものという二つの形があり、それらはいずれも「自由な意思」によって行われることが原則とされていることから、「どのような団体が」「いつ」「どこで」「どのようなボランティア活動を行うのか、あるいは行ったのか」を確実に把握することが極めて難しいためです。

市のボランティア活動を育成、支援する役割を担っている大仙市社会福祉協議会が、現在、把握しているボランティア団体の数は129団体、会員数は延べ約8,500名となっておりますが、これらは地域づくりのボランティア登録が主であり、ほかに芸術やスポーツ等に関するボランティア団体や個人もいることから、実際は、さらに多いというふうに考えております。また、今年度、これまでのボランティアの活動回数につきましては、社会福祉協議会が把握している今後の見込みも含め、市民からの依頼によるケースが3件、ボランティア団体や個人が自らの活動として計画的に活動するケースが59団体の延べ2,588回、社会福祉協議会の事業への協力依頼に応じて活動するケースが9団体の306回、個人ボランティアとして延べ96人の1,569回となっております。なお、これには、降雪期のこれからの活動であります、大仙雪まる隊の分は含まれておりません。

中学生ボランティア活動として、社会福祉協議会では夏休みを利用したサマー・ショート・ボランティア、大仙雪まる隊、配食サービスの掛け紙作成、募金活動への協力をお願いしており、多くの中学生に活動していただいております。また、各校独自に「福祉施設訪問」「クリーンアップ」などのボランティア活動を積極的に実施していただいております。

ボランティア活動は様々な分野があり、その内容も多岐にわたっており、例えば「高齢者福祉分野」では友愛訪問活動、地域巡回の介護予防活動、ふれあいサロン活動の支援など。「障がい福祉分野」では手話サークルによる手話通訳活動、広報の録音サービス、支援学校などへの慰問活動など。「社会教育施設分野」では図書館等での読み聞かせや、本の修理ボランティアなど。そして「除雪分野」では中学生の皆さんにも登録していただいております、除雪ボランティア大仙雪まる隊としての除雪など、様々な活動を実施しています。

2点目のご質問は、中学生が正式メンバーとして活動できる中学生参加型のボランティア団体の育成についてであります。中学生の皆さんがボランティアに積極的に取り組もうとする姿勢は、この後の皆さんの人間形成において、とても大切なことであり、大いに役立つものだと思います。そのようなしっかりした考えをもっている中学生の皆さんが、身近にいることは、地域に住む方々にとって、とても心強いことだというふうに思います。中学生が正式なメンバーとなって活動できる中学生参加型のボランティア団体の設立をしたり、既存のボランティア団体に中学生が参加しやすいように働きかけることにしても、その前の段階として、先生方からのアドバイスを受けながら、「地域に住む方々がどのようなボランティア活動を求めているのか」「自分たちは、どのようなボランティア活動ができるのか」を話し合っただき、考えながら見つけていくことが大事ではないかというふうに考えております。そして、どのようにボランティアと関わり、活動を行っていくのか、皆さんもぜひ参加して学校としての方針を決めていただいてはどうでしょうか。その上で、市としてできる限りの支援を検討していきたいというふうに考えております。以上です。

【健康福祉部長 降壇】

○議長（星宮大翔） 再質問はありませんか。はい、12番藤田さん、再質問をお願いします。

○中仙中学校（藤田愛心） はい、中仙中学校の藤田愛心です。再質問をします。



高齢者が住みよい町は、誰もが住みよい町になると考えます。私たちは、未来の大仙市を創る担い手です。私たちも魅力ある町づくりに参加し、そして、ボランティアを地域に根付かせたいと考えます。そのために、中学生だけでなく小学生等と一緒にボランティア活動ができないかと考えています。

現在、中学校には社会福祉協議会から夏休みなどにボランティア活動への参加依頼はあるものの、そういった情報が少ないのが現状です。

中仙中生に行ったアンケートによると、今年4月から高齢者福祉施設等でのボランティアに参加していない生徒に理由を複数回答で聞いたところ、「いつ参加できるかわからない」が52.3%、

「どの施設で参加できるかわからない」が37.3%にのびます。事前にボランティアについての情報があれば、自主的に参加する生徒も増えますし、生徒会で声をかけることもできます。そして、ボランティアに参加する生徒が増えることで、地域が活性化すると思います。

そこで今後、高齢者福祉施設や障がい者福祉施設等において、分かる範囲での必要な日と内容の情報を市で一元化し、学校に教えていただくことはできないでしょうか。その情報を元に、まずは中学生のボランティア参加を今よりも活発にし、その上で小学生等と連携したボランティアを考えていきたいと思っています。

この提案について、現状や対応が可能かどうかを教えてください。

○議長（星宮大翔） 再質問に対する答弁をお願いします。栗林市長さん。

【栗林市長 登壇】

○市長（栗林次美） 藤田さんの再質問にお答えします。

「高齢者が住みよい町は、誰もが住みやすい町です」「中学生は、未来の大仙市を創る担い手です」「自分たちも魅力ある町づくりに参加し、ボランティアを地域に根付かせたいと考えています」こういう発言がありました。本当に素晴らしいことであり、心強く感じられました。そうした皆さんの考

えは、大切にし、ぜひとも生かして、そして、育てていかなければならないと思っております。

市といたしましては、皆さんがボランティア活動を行いやすいよう、受け入れ可能な高齢者福祉施設や障がい者福祉施設等、いつ、どのようなボランティア活動を必要としているのかといった情報をできる限り収集し、できるだけ提供するようしたいと思っております。高齢者福祉施設や障がい者福祉施設等において、中学生が小学生等と連携してボランティア活動を行う上では、様々な問題をクリアしなければならないと思いますが、大仙市の中学生や小学生独自の素晴らしいボランティア活動を作り上げていく可能性があると思っております、一つ考えていただきたいと思っております。

皆さんには、「未来の大仙市を創る素晴らしい担い手」となってくださいますことを心から期待しております。

【栗林市長 降壇】

○議長（星宮大翔） これにて中仙中学校、11番鈴木太陽さんと12番藤田愛心さんの一般質問を終わります。

【中仙中学校 自席へ】

○議長（星宮大翔） 一般質問の途中ですが、暫時、休憩いたします。再開時刻は午後2時45分といたします。

休憩 午後2時27分

再開 午後2時43分

○副議長（黒川梨々花） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。議長に代わり、議事を進行します副議長の平和中学校、黒川梨々花と



○副議長（中沢宏保） 中沢宏保です。
○副議長（黒川梨々花） よろしくお願いたします。一般質問を続けます。

次に豊成中学校、13番高橋和久さんと14番後松凜さんをお願いします。

○豊成中学校（高橋和久、後松凜） はい、議長13番。はい、議長14番。

【豊成中学校 対面式演壇に登壇】

○副議長（黒川梨々花） それでは、14番後松さん、質問をお願いします。

○豊成中学校（後松凜） 豊成中学校の後松凜です。生涯学習部に大仙市内の文化財のPRについて、質問します。

大仙市豊川にある「水神社」には秋田県で唯一の国宝が収められています。また、豊岡大神成地区では今年度の4月に「伝次郎塚遺跡」が発見されたと聞きました。伝次郎塚遺跡からは縄文時代後期のたて穴住居跡などが見つかかり、ふるさと大仙市の歴史を考える上で大変貴重なものだと思います。こうした文化財にどれくらいの人に関心を持ち、見学などを行っているのか私たちに調べてみました。

大仙市のホームページなどを見ると主要な観光施設・資料館の利用状況は、仙北払田の柵総合案内所が1万1,588人とありました。しかし、南外民俗資料館と仙北民俗資料館は利用者が大きく減



少しています。「水神社」のある地域ですずっと過ごしてきた 私たち豊中生でも、部活動の必勝祈願などでしか貴重な文化財に触れる機会はありません。しかし、調べてみると大仙市では、歴史に触れる文化的観光モデルコースを策定し、各地域の文化財を身近なものとしてPRしていることが分かりました。魅力ある文化財に恵まれた大仙市のPR活動を今後どのように進めていくのか教えてください。また、ずっと昔から守り伝えられてきた貴重な文化財を私たち中学生が受け継ぎ、内外に発信していくために、次の2点を提案します。

小学生や中学生にも分かりやすい文化財一覧表を作成して全戸に配布する。

多くの人が歴史や文化に触れることができるように施設を整備する。

この提案について、現状と今後の計画を教えてください。

○副議長（黒川梨々花） 質問が終わりました。答弁をお願いします。山谷生涯学習部長さん。

【生涯学習部長 登壇】

○生涯学習部長（山谷喜元） 豊成中学校の高橋さん、後松さんの質問にお答えいたします。

文化財は、私たちの国の歴史・伝統・文化などを理解するために欠くことのできないものでありますし、地域の活性化や観光振興なども含めて、文化財を地域資源として活用することが、大きく注目されるようになってきました。

大仙市には、県内唯一の国宝である水神社の「線刻千手観音等鏡像」をはじめ、国指定の「古四王神社本殿」「旧池田氏庭園」「払田柵跡」などを含め、国や県、それに市が指定した文化財が221件あります。

こうした文化財のPRはパンフレットの作成や、市のホームページへの掲載のほかに、その都度行われる水神社や小沼神社の例大祭など、文化財にまつわる行事は広報で紹介したり、日本最大級の大綱を引き合う刈和野の大綱引き行事などはポスターを作って、広く県内外に情報を発信しております。魅力ある文化財をPRしていくことは、とても大切なことですので、ホームページの紹介を充実するとともに、大仙市の観光物産協会と連携しながら、旅行会社や観光施設などにも積極的に情報を伝える努力をしてまいりたいと考えております。

次に小・中学生にも分かりやすい文化財パンフレットの作成や配布についてであります。数年前に「大仙市文化財一覧」という大仙市の文化財のすべてを載せた冊子を作り、学校にも配布しておりますが、部数には限りがありますし、訪問するにしても、場所が分かりにくかったり、生徒の皆さんが、ハローパスポートを手に地域の文化財を訪れるには、まだまだ工夫が必要だと考えております。

したがって、文化財を広く、多くの皆さんに知ってもらうためにも、分かりやすいパンフレットが大切と考えておりますので、文化財を訪問しやすいガイドマップとしての作成を考えているところであります。

次に、文化財見学が可能な施設の整備等ではありますが、文化財の所有者は市、個人、神社仏閣と様々でありますので、目的地である文化財に迷わず行けるように案内板や誘導標識の整備が必要ですので、計画的に整備を進めていきたいと考えております。

文化財は地域の宝であり、ふるさと学習の柱となるものでありますので、これからも、文化財の環境整備と発信に努めてまいりたいと考えております。以上です。

【生涯学習部長 降壇】

○副議長（黒川梨々花） 再質問はありませんか。はい、13番高橋さん、再質問をお願いします。

○豊成中学校（高橋和久） はい、豊成中学校の高橋和久です。再質問をします。



文化財一覧表を作成するとしたら、どのような形で作成しますか。中学生が協力できるようなことがあったら教えてください。

○副議長（黒川梨々花） 再質問に対する答弁をお願いします。吉川教育長さん。

【吉川教育長 登壇】

○教育長（吉川正一） 高橋さんの再質問にお答えいたします。

まず、このパンフレットの作成についてなんです。実は私でもありますね、先ほど部長の方から説明のあったパンフレット。これです。非常に立派です。ただ、もっと使いやすいものがほしいなど内々思っていたんです。大変良い質問をしてくださったなと思っています。具体的には、まず、身近な自分の地域や周辺の文化財を知っていただくこと。さらには大仙市内の興味のある文化財へと視野を広げていただけるように、旧市町村ごと、あるいは、今日お集まりの中学校区ごとの見学場所をピックアップして、ガイドマップのような案内資料が必要ではないかなと考えております。

このガイドマップ作成に際しては、ぜひですね、中学生の皆様からも、力をお借りして、いろんな面で、一緒に作っていくという形で、できるだけ皆さんの想いを入れたものにしていきたいと思っております。そして、このガイドマップを活用しながらですね、そこで感じたこと、伝えたいこと、家族・友人・地域の方々だけではなく、出来れば、県外の方々にも、いろんな面で、例えば修学旅行等とかですね、発信してもらえばなと思っております。

また、遠くからお見えになる皆様などは、例えば仙北中学校がやってるようになりますね、旧池田氏庭園のガイド、ボランティアガイドみたいな感じでですね、中学生の皆さんがガイドするなど、文化財の価値を皆様の力も借りて広げていきたいと思っております。よろしくをお願いします。終わります。

【吉川教育長 降壇】

○副議長（黒川梨々花） これにて豊成中学校、13番高橋和久さんと14番後松凜さんの一般質問を終わります。

【豊成中学校 自席へ】

○副議長（黒川梨々花） 次に協和中学校、15番茂木顕光さんと16番武藤隆晏さんをお願いします。

○協和中学校（茂木顕光、武藤隆晏） はい、議長15番。はい、議長16番。

【協和中学校 対面式演壇に登壇】

○副議長（黒川梨々花） それでは、15番茂木さん、質問をお願いします。

○協和中学校（茂木顕光） 協和中学校の茂木顕光です。建設部に大仙市の将来都市像を目指した都市計画事業について質問します。

県内でも面積が大きい方の大仙市ですが、人口は大曲地域に集中しています。そのほかの地域では、少子高齢化による人口減少が激しく、一人暮らしの高齢者が買い物や通院などを思うようにできないというケースが増えています。大仙市総合計画の将来都市像は「人が生き人が集う夢のある田園交流都市」ですが、厳しい現実があると感じています。



このような大仙市の現状に対して私たちが提案するのは、住居、病院、商店などを各地域ごとにまとめたコンパクトな街づくりです。そのために、各地域ごとにまちづくりプロジェクトを立ち上げ、次の二つのことに取り組むというのはいかがでしょうか。

一つめは、各地域に一人暮らしの高齢者が住める団地のような施設をつくり老後を安心して暮らせるようにすることです。私も両隣に住む一人暮らしの方の家々を除雪していますが、特に除雪は、高齢者にとって大きな問題です。現在、市には公営住宅がありますが、それをバリアフリーに改築するなどして、うまく活用していけたらよいのではないのでしょうか。

二つめは、そこにまちの拠点となる学校、病院、商店などを配し、子ども、若者、高齢者など様々な世代が交流できるようにすることです。高齢者を孤立させず、地域のコミュニティを再構築することにより、助け合い、関わり合い、活気ある地域づくりができるのではないのでしょうか。

この提案について、市としてのご意見をお聞かせください。

○副議長（黒川梨々花） 質問が終わりました。答弁をお願いします。朝田建設部長さん。

【建設部長 登壇】

○建設部長（朝田司） 協和中学校、茂木さん、武藤さんの質問にお答えいたします。

大仙市には、市が管理する公営住宅が、平成28年4月1日現在で、19団地584戸ありますが、そのなかに高齢者向け住宅が3団地68戸あります。これらの公営住宅は、バリアフリーとなっており、大曲地域の都市再生住宅については、一般入居者と高齢入居者がお互いに出会う機会を増やすような配置にし、1階には、高齢者生活相談所と子育て支援施設を設置しており、入居者だけでなく近隣住民にも利用していただき、入居者と交流しやすいように工夫しております。また、昨年度から建設している西仙北地域の天神前住宅については、バリアフリーのほか団地内に畑や東屋を作り、入居者同士が集うスペースを設置しております。今後は、バリアフリーが進んでいない公営住宅については、改修を行い、新たに公営住宅を建設する場合は、バリアフリーはもちろんのこと、高齢者や子育て世帯、若者世帯など様々な世代が、安心して暮らせるような公営住宅を目指したいと思います。

次に二つ目の質問についてお答えいたします。市では、も続可能なまちづくりを進めていくための指針として「大仙市都市計画マスタープラン」を平成21年7月に策定しております。都市計画マスタープランとは、都市の将来像を見据えた長期的なまちづくりの方向性を示す計画書であり、策定した平成21年から約20年後の平成42年の大仙市の姿を将来像として予測・展望した計画です。本計画では、合併した各地域の特性や資源を活かしながら、身近な暮らしやすさも確保し、市街地と農村集落とが共存できるような都市のあり方として「機能集約型都市」構造への転換を図ることとしております。これまでは、人口増加等により市街地が拡大していく一方で、郊外にも集落等が分散しているまとまりのない拡散型の都市となっていましたが、今後は、機能集約型都市として、市民の皆さんが生活するために必要となる医療・商業施設などの機能を集約した「拠点」を各所に設け、拠点間を連携する幹線道路や公共交通を「軸」として考え、拠点と軸によるネットワークの形成を図りながらまちづくりを進めようとするものです。ご提案のありましたとおり、各地域にある支所周辺を各地域の拠点として機能の集約を図りつつ、各地域間の連携をより一層強化することを目標に、今後のまちづくりを進める考え方があります。さらに、今年度からは都市計画マスタープランの高度化版とな

る「大仙市立地適正化計画」の策定に着手しております。立地適正化計画とは、将来の都市像を見据えたうえで、公共施設の適正な配置や都市機能の集約化を図り、さらに、公共交通の機能強化を図ることでまちづくりを進めるもので、いままでの単純なコンパクト化だけではなく、「コンパクト・プラス・ネットワーク」により人口減少にあっても生活サービスや地域コミュニティの維も・確保ができるも続可能なまちづくりを進めるための指針となるものであります。

これからも、都市計画マスタープランと立地適正化計画を基に、8地域それぞれの個性を活かしつつ、自然環境との調和が取れ、住みやすい安らぎのあるまちづくりを進め、夢のある田園交流都市の実現を目指してまいります。以上です。

【建設部長 降壇】

○副議長（黒川梨々花） 再質問はありますか。はい、16番武藤さん、再質問をお願いします。

○協和中学校（武藤隆晏） はい、協和中学校の武藤隆晏です。再質問します。



提案したようなコンパクトな街づくりは、今すぐには実現できないかもしれませんが、高齢者の移動手段のサポートについて検討をお願いします。

現在、市では乗合タクシーや循環バスなど、ある程度、高齢者の移動手段をサポートしていますが、一般バスについても例えば、高齢者が利用することの多い施設等を路線に組み入れると、高齢者の方々も助かるのではないかと思いますし、一般バスを有効活用にもつながると思いますが、いかがでしょうか。

○副議長（黒川梨々花） 再質問に対する答弁をお願いします。栗林市長さん。

【栗林市長 登壇】

○市長（栗林次美） 再質問にお答えいたします。

市では、公共交通サービスの維も・確保のため「大仙市地域公共交通網形成計画」第3期交通計画と簡単に言っておりますが、これに基づいて事業を実施しております。ご存じのとおり市内全域では、乗合タクシーや循環バス、市民バス、コミュニティバス、そして民間バス事業者が運行している路線バスがあり、これらに市では約年間2億円ほどを投入し運行しております。質問の高齢者の移動手段のサポートについては、通院や買い物など、市民の皆さんの生活の足になるよう、乗合タクシーや循環バスなどを運行しております。また、運転免許返納者に対しては、乗合タクシーやバスを利用する際の割引券の交付を行っているほか、電車、バス、タクシーと乗り継ぎやすい時間の設定や、主要な施設へ路線を繋げるなど、交通の利便性の確保を図ってまいりました。

ご提案いただいた、バスのルートに高齢者が利用する機会の多い施設を組み入れるということは大変有意義な取組であると考えております。

今後も、市民の皆様の要望を踏まえ、より利用しやすい移動手段の確保に努めてまいります。なお、一般の路線バスについては、民間バス事業者が運転しており、市が直接路線変更などの決定ができないことから、本日の皆様からのご提案を市として、しっかりと民間業者にお伝えし、改善に結び付けて行きたいと思っております。

【栗林市長 降壇】

○副議長（黒川梨々花） これにて協和中学校、15番茂木顕光さんと16番武藤隆晏さんの一般質問を終わります。

【協和中学校 自席へ】

○副議長（黒川梨々花） 次に南外中学校、17番小松滯央さんと18番伊藤紗楽さんをお願いします。

○南外中学校（小松滯央、伊藤紗楽） はい、議長17番。はい、議長18番。

【南外中学校 対面式演壇に登壇】

○副議長（黒川梨々花） それでは、17番小松さん、質問をお願いします。

○南外中学校（小松滯央） 南外中学校の小松滯央です。教育指導部に中学生の防災教育に係わる取組について質問します。



私たちは4年前から南三陸町との交流活動を続け、南三陸町の方々から防災に対する具体的な取組や、災害に対する心構えなどについて、多くのことを学んできました。その中において、現地の中学生が東日本大震災のときに避難所の運営に取り組んだこと、現在はほとんどの中学生がAEDを操作できることなどを知り、防災・減災について高い意識と技能を身に付けていることに驚かされました。

市の教育委員会のホームページを見ると、「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」において、被災地交流や避難所開設訓練が積極的に行われていることが分かります。しかし一方、いつどこでどのような自然災害が起こるかわからない状況にあり、また人口減少による各地域の自主防災組織の縮小などの課題もみられると感じています。

したがって、地域の一員として、災害から地域の方々や財産を守るために、将来を担う私たち中学生がより一層防災意識を高めることや、具体的な知識や方法を身につけることが必要だと強く感じています。

そこで、「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」のねらいを活かし、これまで以上に防災意識を高めるための具体的な施策や、今後の計画について教えてください。

○副議長（黒川梨々花） 質問が終わりました。答弁をお願いします。伊藤教育指導部長さん。

【教育指導部長 登壇】

○教育指導部長（伊藤雅己） 南外中学校、小松さん、伊藤さんの質問にお答えします。

まずは、ご質問の「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」についてであります。「自分の命は自分で守ることができる子ども」の育成を目指し、平成25年度から実施しており、主に「被災地との交流」と「避難所開設訓練」の二つの取組を柱としております。「被災地との交流」につきましては、南外中学校と南外小学校の皆さんが、宮城県南三陸町との交流を進めているように、市内の中学校5校及び小学校9校が実施しております。被災地に出向くことが難しいため、自分たちが収穫したお米を送っている学校もあります。小・中学校のみならず、地域の皆様と連携して、物の支援から交流へと、これまで以上に広がりや深まりが見られます。

「避難所開設訓練」につきましては、総合防災課の指導の下、今年度は仙北中学校をモデル校として実施しております。中学生が地域の一員として、避難所の設営や運営に主体的に参画し、「地域との絆・つながり」を意識した活動が見られました。「避難所開設訓練」は、これまで仙北中学校を含め4つの中学校で実施されており、平成35年度までに全ての中学校で実施する予定です。なお、平和中学校や大曲中学校では、学校独自の「避難所開設訓練」を実施しており、こうした訓練を実施す

る学校が増えることによって、より一層防災意識の高まりが期待できます。まだ「避難所開設訓練」を実施していない学校で訓練の実施を希望する場合は、先生方と相談し、市教育委員会までお知らせください。

また、情報発信の取組として、夏休みに開催している「中学生サミット」において、モデル校から訓練の概要や成果と課題等について発表してもらい、情報共有する予定としております。

これまでの「被災地との交流」や「避難所開設訓練」の取組状況をダイジェスト版として冊子にまとめ、各校に配布するとともに、市教育委員会のホームページにもアップしておりますので、ぜひ参考にしてください。これが、この冊子になります。

今後は、市教育委員会ホームページの防災関連情報の充実を図るために、国や県、他団体の防災関連ページをリンクさせるなどの可能性についても、検討してまいります。以上です。

【教育指導部長 降壇】

○副議長（黒川梨々花） 再質問はありませんか。はい、18番伊藤さん、再質問をお願いします。



○南外中学校（伊藤紗楽） はい、南外中学校の伊藤紗楽です。再質問をします。

中学生がこれまで以上に防災意識を高めるために、地域の一員としてどのような活動すればよいかを考えています。中学生が防災に関する研修会や講習会に参加できるような機会や手立てがあったら教えて下さい。

○副議長（黒川梨々花） 再質問に対する答弁をお願いします。吉川教育長さん。

【吉川教育長 登壇】

○教育長（吉川正一） 伊藤さんの再質問にお答えいたします。

中学生が参加できる最も身近な防災に関する研修会や講習会としては、各地域の自主防災組織の訓練が上げられます。これには、たぶんお父さん方もその一員になっている今日議員の中学生の皆さんもいらっしゃるかもしれませんね。例えば、そういった組織がですね、地域の運動会で消火リレーや担架搬送を種目として取り入れたり、炊き出し訓練を行い地域住民がみんなで食事をしたりするなど、各地域が工夫した訓練を実施しています。また、消防機関が「救急の日」などのイベントとして、AEDの講習会を開催したり消火体験を行ったりしていますし、由利本荘市にある「秋田県防災学習館」では、常時、地震・煙・初期消火等の体験ができます。

市内の中学校においては、避難訓練の際に、AED訓練をはじめ、初期消火体験や震度7までできるといわれている地震体験車による強い揺れの体験など、様々な講習や研修を行っている学校もあります。また、地域の危険箇所や想定される災害などを自分たちで調査し、DIG、ディグと言いますが、ディグと呼ばれる地図上の訓練を通じて「防災マップ」にまとめる活動に取り組んでいる学校もあります。さらに、これは静岡県のある中学校でなんですが、被災者の支援として何ができるかをカードにまとめて、災害時の「自助」「共助」につながる活動をしている学校もあると聞いております。いずれにしても、消防署や市の総合防災課など、関係機関の協力が必要なことから、まずは学校の先生方に相談をしてみてください。市教育委員会としましても、そうした取組を全面的に支援してまいります。

防災意識を高める上で、何よりも大切なことは、自分の家の立地条件を考えて、起こり得る災害を

想定し、避難経路や避難場所、家庭での備蓄品などを確認することです。日頃から、身近な訓練やイベントに参加するとともに、家族の間で防災に関する話をたくさんすることで、中学生の皆さんはもちろんのこと、地域全体さらには大仙市全体の防災意識が高まるものと期待しております。以上です。

【吉川教育長 降壇】

○副議長（黒川梨々花） これにて南外中学校、17番小松滯央さんと18番伊藤紗楽さんの一般質問を終わります。

【南外中学校 自席へ】

○副議長（黒川梨々花） ここで、議事の進行を中沢宏保さんと交代するため、暫時、休憩いたします。

休憩 午後3時19分

再開 午後3時20分

○副議長（中沢宏保） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。ここからの議事を進行します、平和中学校の中沢宏保です。よろしくお願いいたします。

一般質問を続けます。

次に仙北中学校、19番後藤波瑠さんと20番草薨夏輝さんをお願いします。

○仙北中学校（後藤波瑠、草薨夏輝） はい、議長19番。はい、議長20番。

【仙北中学校 対面式演壇に登壇】

○副議長（中沢宏保） それでは、19番後藤さん、質問をお願いします。

○仙北中学校（後藤波瑠） 仙北中学校の後藤波瑠です。生涯学習部に花火を中核とする街づくりのための文化財の有効活用について質問します。



広報誌や新聞を見ると、大仙市は花火を中核とする街づくりを進めていることが分かります。しかし、仙北中学校のある仙北地域には、花火に関する産業はなく、花火を中核とする街づくりといっても全くイメージがわきません。そこで私たち仙北中生徒会執行部は、周辺の地域にも花火の輪を広げる必要があると考えました。

私たち仙北中学校では、毎年、国指定史跡旧池田氏庭園のガイドボランティアを行っています。今年度は、外国人のお客様に対応できるように英語での解説マニュアルを作成し、数多くのお客様をお迎えしています。

旧池田氏庭園は、花火会場からも比較的近く、お客様にぜひ足を運んでいただきたい場所でもあります。そこで、市の文化財でもある旧池田氏庭園や古代の城柵国史跡弘田の柵などを有効活用し、一年を通して観光客に来ていただける花火パークの整備を提案したいと思います。

花火パークとは、文化財の一角に全国花火競技大会等のDVDを流すなど花火を紹介するスペースを設けたり、可能であれば近くで花火を打ち上げて文化財から観覧したりすることで、観光客や住民が集まり、交流できるような場所を考えています。

花火産業のない地域は、ほかにもあると思います。そのような地域でも同様に文化財等を活用して花火パークをつくってはどうか。この提案について大仙市のお考えをお聞かせください。

○副議長（中沢宏保） 質問が終わりました。答弁をお願いします。山谷生涯学習部長さん。

【生涯学習部長 登壇】

○生涯学習部長（山谷喜元） 仙北中学校の後藤さん、草薨さんの質問にお答えいたします。

質問の花火を中核とする街づくりのための文化財の有効活用についてであります。花火と文化財を関連させるところに目を向けていただきまして本当にありがとうございます。感謝いたします。

皆さんご存知のとおり、花火は大仙市では毎月どこかで打ち上げられています。これは大仙市の花火暦を見るとよく分かります。合併前の旧市町村すべてで打ち上げられていますが、それは、地域のお祭りなどのイベントだったり、素晴らしい花火大会として行われたりしています。

文化財と関連して花火が打ち上げられていることもあります。一例を上げますと、仙北地域で8月15日に行われている「まつり彩夏せんぼく」は「千二百年の時をこえて」をテーマに弘田の柵跡を会場に行われているお祭りですが、ファイナレを飾る花火ショーでは、およそ1千発の花火が夏の夜空を彩ります。

西仙北の大綱引きでは、昨年から冬の澄んだ夜空に色鮮やかな花火が打ち上げられるようになりました。このように大仙市のすべての地域で花火が打ち上げられていることは「花火を中核とする街づくり」にとっても大切なことだと思っております。

そして今、仮称ではありますが「花火伝統文化継承資料館」が平成30年夏のオープンを目指して計画されています。これは大曲の市街地に作られる予定ですが、ここは花火伝統文化を継承し発信する場所になります。この資料館の中に大きなスクリーンを設置して、そこに花火を映し出すシアターの計画もあります。ぜひ、中学生の皆さんにも来ていただいて、花火文化に触れていただきたいと思っております。

ご提案いただいた花火パークの構想ですが、必要性についてはよく理解できましたので、今後、大仙市の計画に活かしていけるようにいろいろと考えていきたいと思っております。以上です。

【生涯学習部長 降壇】

○副議長（中沢宏保） 再質問はありませんか。はい、20番草薨さん、再質問をお願いします。

○仙北中学校（草薨夏輝） はい、仙北中学校の草薨夏輝です。再質問をします。

来年4月には国際花火シンポジウムが行われるそうですが、これをきっかけに海外から来て下さるお客様も増えることが予想されます。大仙市は、海外から来てくださるお客様をどのようにもてなすお考えでしょうか。

おもてなしは花火を上げることだけではないように思います。このたび花火シンポジウムを誘致されたということは、今後も花火を通じた国際交流や集客もお考えのことと思います。



花火を中核とした街づくりのために中学生が考えなければならないことは何か、また、中学生が協力できることがあれば教えてください。

○副議長（中沢宏保） 再質問に対する答弁をお願いします。老松副市長さん。

【老松副市長 登壇】

○副市長（老松博行） 再質問にお答えいたします。

国際花火シンポジウムは、約400名の外国人の方が参加する予定であります。外国からのお客様にとりましては、心地よく、安心

して滞在できる環境を整えることが第一のおもてなしと考えております。

そのため、市では道の駅や温泉などでのWi-Fi環境の整備やクレジットカード決済機の導入を計画的に進めております。また、市民ボランティア育成のための英会話講座の開催や、市内金融機関の協力を得て宿泊業や商店、バス・タクシー業の従業員の皆さんを対象に、指しシートなどを活用した簡易な英会話を勉強する、外国人観光客おもてなし講座を開催するなど、受け入れ体制の整備に努めております。

シンポジウムを契機といたしまして、大仙市を世界へ向けて発信し、継続的に外国人観光客を呼び込むこととしており、今後も引き続き市民の皆さんの協力を得ながら、おもてなしの心の醸成を図ってまいりたいというふうに考えております。

先ほど、平和中学校の皆さんへの市長の答弁にもありましたように、国際花火シンポジウムの前日となる4月23日には、大曲ヒカリオ広場におきまして、イベントが行われ、多くの外国人の方が来られる予定であります。中学生の皆さんにはぜひ参加をしていただきまして、交流を深めるとともに、案内役等を担っていただければというふうに考えております。以上です。

【老松副市長 降壇】

○副議長（中沢宏保） これにて仙北中学校、19番後藤波瑠さんと20番草薙夏輝さんの一般質問を終わります。

【仙北中学校 自席へ】

○副議長（中沢宏保） 次に太田中学校、21番高橋月乃さんと22番高貝ここあさんをお願いします。

○太田中学校（高橋月乃、高貝ここあ） はい、議長21番。はい、議長22番。

【太田中学校 対面式演壇に登壇】

○副議長（中沢宏保） それでは、21番高橋さん、質問をお願いします。

○太田中学校（高橋月乃） 太田中学校の高橋月乃です。経済産業部に大仙市の活性化について質問します。

市のホームページを見て、大仙市の人口が減少の一途をたどっていることが気になりました。そこで国勢調査を基に15歳から64歳までの生産年齢人口の推移を調べてみると、平成17年から平成27年までの10年間で5,268人、割合にすると10%以上も減っていることが分かりました。

さらに20代の若者では17%以上の減少と、人口流出が突出しています。市の将来に関するアンケートによると、若者が大仙市に戻りたくない理由の一つに職場の無さが挙げられています。大仙市を活気あふれる街にするためには、一度流出した若者が再び戻ってきたいと思える街づくりを推進していくべきだと考えます。

その方策の一つとして、大曲農業高等学校で考案した「大仙はなびピザ」のような商品を開発し、若者の力を活用して大仙市の魅力を発信してみたいかがでしょうか。

そこで私たちは、合併前の八つの市町村の特産物を集め、その全てを生かした様々なレシピを若者たちの柔軟な発想で開発して、商品化することを提案します。商品化に当たっては地元企業と連携することで地元経済の活性化に貢献でき、農業・商業・製造業への波



及効果も期待できます。また、商品の開発・生産・販売に若者が中心となって携わることで新たな働く場の拡大にもつながります。この提案について、市としての考えや今後の計画について教えてください。

○副議長（中沢宏保） 質問が終わりました。答弁をお願いします。小野地経済産業部長さん。

【経済産業部長 登壇】

○経済産業部長（小野地洋） 太田中学校、高橋さん、高貝さんのご質問にお答え申し上げます。

若者が中心となって地域の特産物を活かしたレシピを考案し、その商品化や生産・販売にも積極的に携わることについてご提案をいただきありがとうございます。現在、市内では、西仙北中学校が美術の授業の一環で和菓子の模型をつくり地元菓子店による商品化につながっているほか、大曲高校が商業科の授業の一環として「米っ娘シュー」や「枝豆クッキー」などを開発、また大曲農業高校が家庭部及び食品加工部の活動の一環として「大仙はなびピザ」や「ぶどう液」などを開発しております。こうした中学生、高校生による商品開発の積極的な取組が行われております。

これらの学校に限らず、他の中学校や高校においても授業や部活動の一環として地域の特産物を使った商品開発に自発的に取り組んでいただくことは、開発に興味をもつ若者の増加と開発力の底上げ、ひいては本市の活性化につながるものと考えております。

また、市では、大仙市花火産業構想の一環として、食とブランディングの専門家をお願いをいたしまして、市内の農水産物を原料としたおみやげ品のブランド化と商品開発 計画の作成に取り組んでおります。この事業を通じて全国花火競技大会の観覧者をはじめとする多くの観光客、通年をとおしたビジネス客に本市の商品を積極的に売り込んでいくこととしております。以上です。

【経済産業部長 降壇】

○副議長（中沢宏保） 再質問はありますか。はい、2番高貝さん、再質問をお願いします。

○太田中学校（高貝ここあ） はい。太田中学校の高貝ここあです。再質問をします。

もし商品化ができるとすれば、そのPR活動として大仙市が誇る「全国花火競技大会」と連携してはどうでしょうか。大会会場にブースを作り、国内外の観光客の方々から試食していただくなどして商品をPRすれば、大きな宣伝効果が期待できるはずですが、また、大仙市のホームページだけではなく、動画配信サービスなど多くの方々を手軽に閲覧できるメディアを活用し、広報活動してはどうでしょうか。



○副議長（中沢宏保） 再質問に対する答弁をお願いします。久米副市長さん。

【久米副市長 登壇】

○副市長（久米正雄） 再質問にお答え申し上げます。

開発した商品のこのPR方法としては、ご提案のとおり、全国花火競技大会の時に、大仙市観光物産協会ブースでの紹介・販売や協会会員をはじめとする市内商店での販売を促進してまいりたいと思います。

また、花火ウィークや秋の稔りフェアなどの市内行事や、首都圏等での観光物産イベントに積極的に参加しまして、販売・PRを実施するとともに、市の広報やホームページ、マスコミなど様々なツールを活用してPRしてまいります。

さらに、多くの方が手軽に閲覧できるメディアとして、現在スマートフォン向けの花火の写真をより美しく撮れるカメラアプリを制作中であります。その中に観光メニューを設けまして、この特産品

を紹介することとしております。そういうことで広く国内外にPRできるものと思っております。

このように新たな手法を取り入れながら、今後も積極的に情報発信に努めてまいりたいと思います。以上です。

【久米副市長 降壇】

- 副議長（中沢宏保） これにて太田中学校、21番高橋月乃さんと22番高貝ここあさんの一般質問を終わります。

【太田中学校 自席へ】

- 副議長（中沢宏保） 次に西仙北中学校、1番堀江歩珠さんと2番星宮大翔さんをお願いします。

- 西仙北中学校（堀江歩珠、星宮大翔） はい、議長1番。はい、議長2番。

【西仙北中学校 対面式演壇に登壇】

- 副議長（中沢宏保） それでは、2番星宮さん、質問をお願いします。

- 西仙北中学校（星宮大翔） 西仙北中学校の星宮大翔です。総務部に大仙市アーカイブズ設置について質問します。

大仙市のホームページで調べたところ、僕が入学した双葉小学校が、大仙市アーカイブズに変わるそうです。大仙市アーカイブズの目的は、「市の歴史資料として重要な行政文書や古文書などの地域史料を収集・保存し、市民共通の財産として後世に伝えるとともに、それらを広く公開すること」とありました。東北地方の市町村では初めてということで、わたしたち中学生も、大仙市アーカイブズを積極的に利用したいと考えております。



さて、昨年9月15日に行われた、公文書館設置懇話会によりますと、「アーカイブズ資料の内容についてどのようなものにするか悩まれている」という印象を受けました。そこで、アーカイブズの項目の中に「学校」を入れてみてはいかがでしょうか。

歴史は、人がつくるものだと思います。大仙市の歴史は、大仙市民がつくってきたものです。そういった意味で、学校の歴史は目的にある市民共有の財産としてふさわしいのではないのでしょうか。特に、廃校になった学校についての資料は貴重であり、地域史料として大切にしていかなければならないと思います。地域を離れた人たちも、時折学校の仲間会に会います。アーカイブズ資料の中に母校の資料があるとなれば、利用する人も多くなると思いますし、当時のことを思い出し、大仙市の良さに気づき、戻ってくる人もいるかも知れません。

アーカイブズの項目の中に「学校」を入れてみるというこの提案について、対応が可能かどうかを教えてください。

- 副議長（中沢宏保） 質問が終わりました。答弁をお願いします。佐藤総務部長さん。

【総務部長 登壇】

- 総務部長（佐藤芳彦） 西仙北中学校の堀江さん、星宮さんの質問にお答え申し上げます。

平成28年9月15日に開催いたしました、第8回大仙市公文書館設置懇話会の会議録から、市が「アーカイブズ資料の内容についてどのようなものにするのか悩んでいる」という印象を受けられたとのことであります。この設置懇話会で協議してございましたのは、どのような種類の資料を収蔵するのかということではなくて、5月の開館に当たっての資料展示を、どのような内容、どのような企画

にすべきかということでした。

現在、「学校」に関する資料につきましては、建物の建設工事、耐震改修工事など、教育委員会が実施した事業についての資料は、市において保存しておりますが、例えば、指導要録など、個人の学習の記録に関するものや、学校行事等を記録した、いわゆる沿革誌などは、各学校において保存している状況であります。

市役所の場合、保存期間が満了となった公文書につきましては、歴史的な重要度を評価し、選別してから、大仙市アーカイブズに移すこととなります。学校からのアーカイブズに移す仕組みについては、現在のところ定まっておらない状況であります。

しかしながら、これらの学校資料につきましては、個人情報やプライバシーの関係で、公開が難しいものもございますが、中には、地域社会の要である学校の活動を記録したものでありますので、貴重な歴史資料となりうるものがあると思っております。

そういったことから、ご提案いただきました、大仙市アーカイブズにおける「学校」に関する資料につきましても、保存・公開ができるよう、今後、関係機関と連携し、検討してまいりたいと考えております。

なお、旧双葉小学校に展示してありました、児童の製作品などにつきましては、大仙市アーカイブズに旧双葉小学校の展示室を設け、年間を通じて展示してまいります。卒業生の方々をはじめ、地域の皆様の思い出を大切に守っていきたいと考えております。多くの皆様のご来館をお待ち申し上げます。以上であります。

【総務部長 降壇】



○副議長（中沢宏保） 再質問はありませんか。はい、1番堀江さん、再質問をお願いします。

○西仙北中学校（堀江歩珠） はい、西仙北中学校の堀江歩珠です。再質問をします。

アーカイブズの設置について、西仙北地域以外の市民には、まだ知らない人も多いのではないのでしょうか。また、アーカイブズは私たち小・中学生も授業や自由研究などで活用できる施設になると考えます。幅広い年代の方々に広く利用してもらうために、アーカイブズの開設設置とその目的を市民や私たち小・中学生にもっとアピールしてはいかがでしょうか。

また、設置場所が西仙北強首地区という点から、地域住民以外の方々はやや利用しにくい面があると思います。例えば、最寄り駅からシャトルバスを運行するなど、自家用車で移動できないお年寄りや子どもも気軽に利用できるような交通手段を検討していただけないでしょうか。よろしくをお願いします。

○副議長（中沢宏保） 再質問に対する答弁をお願いします。栗林市長さん。

【栗林市長 登壇】

○市長（栗林次美） 堀江さんの再質問にお答えします。

はじめに、大仙市アーカイブズの設置目的につきましては、歴史的に重要な公文書等を市民共有の財産として保存することで、市民が利用できるようにし、これにより市の活動を現在及び将来の市民に説明出来るようにするということでもあります。

全国的に見ましても、「公文書館」「アーカイブズ」はまだ知名度が低いことから、平成26年度か

ら毎年、市民向けの啓発のシンポジウムや講演会を開催し、なぜ大仙市で公文書館を設置するのかを伝えてまいりました。特に、平成27年度は、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会の全国大会を大仙市で開催し、テレビや新聞に取り上げられるなど、公文書館の設置について大きくアピールできたと考えております。また、今年度は、毎月、市広報におきまして、公文書館に関する連載記事を掲載しております。公文書館設置に向けて助言をいただいている、大仙市公文書館設置懇話会の委員の皆様による、「私が考える地域のアーカイブズ」と題した記事のほか、改修工事の状況も掲載しております。

今後も、市広報やホームページ等を通じて、情報を発信していくことはもちろんですが、学校授業や自由研究等で使える、実際の資料を紹介して、幅広い年代の方々に利用していただけるよう務めてまいります。

次に、アーカイブズへの交通手段についてであります。現在、民間のバス路線は廃止されておりますし、最寄駅の刈和野駅または峰吉川駅からも距離があることから、事実上自家用車でおいでいただくという状況であります。

ご提案のとおり、週一回程度、刈和野駅からシャトルバスを運行する予定であるほか、ご連絡をいただければ、刈和野駅や峰吉川駅までの間で、公用車による送迎も行う計画であり、車を運転できない方や子どもたちにもぜひ利用していただけるよう、いくつかの工夫をこらしてみたいと思っております。

【栗林市長 降壇】

○副議長（中沢宏保） これにて西仙北中学校、1番堀江歩珠さんと2番星宮大翔さんの一般質問を終わります。

【西仙北中学校 自席へ】

○副議長（中沢宏保） ここで、議長交代のため、暫時、休憩いたします。

休憩 午後3時53分

再開 午後3時54分

○議長（堀江歩珠） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

次に、日程第5、決議案第2号「笑顔と活気あふれるまちづくり」に関する決議案を議題といたします。本決議案は、議長を除き、全議員の提案であります。提出者を代表して17番、南外中学校の小松濤央さんから提案理由の説明をお願いいたします。

○南外中学校（小松濤央） はい、議長17番。

【南外中学校 小松濤央さん 登壇】

○議員（小松濤央） 決議案第2号は、お手元に配布しております決議案を読み上げまして、提案理由の説明に代えさせていただきます。

私たち大仙市の中学生は、ふるさとを愛し、大仙らしさを大切に守り続けるとともに、笑顔と活気あふれるまちづくりを目指し、大仙市の未来をつくる主役として、地域とともに積極的に活動していきます。

何卒中学生議員の皆さんのご賛同をお願い申し上げます。



【南外中学校 小松濤央さん 降壇】

○議長（堀江歩珠） 以上で、提案理由の説明は終わりました。

本件は、議長を除く全議員の提案でありますので、質疑と討論を行わず、直ちに採決したいと思います。これにご異議ございませんか。

【異議なし】

○議長（堀江歩珠） ご異議なしと認めます。

これより決議案第2号について、起立をもって採決いたします。

ただいま提案されました決議案第2号「笑顔と活気あふれるまちづくり」に関する決議案は、原案のとおり決することに賛成の皆さんのご起立をお願いいたします。



【起立 全員】

○議長（堀江歩珠） 起立全員です。

よって、決議案第2号「笑顔と活気あふれるまちづくり」に関する決議案は、原案のとおり可決されました。

ご着席ください。

以上で、本中学生議会の日程はすべて終了しました。これにて、平成29年大仙市中学生議会を閉会いたします。お疲れさまでした。

この会議録の内容に間違いがないことを確認し署名します。

平成 29 年 2 月 8 日

大仙市中学生議会議長 西仙北中学校 堀江 歩珠

議長 西仙北中学校 星宮大翔

議員 大曲中学校 柴田 大和

議員 大曲西中学校 三浦 太陽

議員 大曲南中学校 佐々木 愛香

<閉会式>

◆ 栗林次美 大仙市長 お礼のあいさつ

感想を含めまして、お礼のごあいさつを申し上げます。

今日の中学生議会は、現在、大仙市で実施しております議会とほぼ同じ形で、議事進行をしていただいて、私ども執行部が答弁したところです。

我々答弁する側といたしましては、できるだけ、行政の専門用語であるとか、或いは法律の専門用語的なものは、分かりやすく説明しながら、答えつつもりではありますが、皆さん、いかがだったでしょうか。大仙市の本会議は、このような進行となりますが、本会議以外に全員協議会や議員説明会のように、もう少し自由な協議の場もあります。

今日は、正式な本会議という場ですので、皆さんからの質問、或いは、提案、課題、そういったものに対して市がどう実施しているのか、或いは、実施しようとしているのかを答えるという形で、それぞれ記録を残しておく必要があります。そして、この議論に基づいて次のステップに臨むことが大事であると考えております。やや堅苦しい感じがあったかと思いますが、これが現在の議会の姿であるというふうにご理解をお願いしたいと思います。

中学生の皆さん、今回の議会、本当によく大仙市の課題、そういったものを調査している、大変勉強しているというふうに思いました。大変感心しております。

我々も一生懸命答弁したつもりですが、どこまで皆さんが理解できたのかが、とても大事ではないかと思えます。多分、私の個人の考えですけれども、たぶん中学生の皆さんが、大方理解できない形での答弁は、一般市民の人達もわからないのではないかと感じております。

今日、我々が答弁させていただきました、それぞれの要旨については、皆さんに後でお渡ししたいと思います。また、質問に対し、どのくらい我々が答弁できたかという感想もあとで聞かせていただきたいと思います。

さて、先程の議会で答弁させていただいた問題について、補足的なことを若干、触れさせていただきます。大曲中学校の皆さんから質問がありました大曲駅前施設を利用した地域活性化についてであります。先程答弁申し上げましたとおり、大仙市・仙北市・美郷町の圏域住民14万人の医療に対する安心と、まちなかの活性化を目指して整備したところであります。施設の利活用については、様々な媒体を利用したPRやお知らせを行っておりますので、中学生の皆さんからも、ヒカリオ広場で開催する各種イベントには、積極的に参加していただき、一緒に地域を盛り上げていただきたいと思います。

それから、西仙北中学校の皆さんから質問のありましたアーカイブズの問題についてであります。答弁申し上げましたように、交通の便は、正直、あまり良いとはいえませんので、シャトルバスの運行も考えているほか、直接足を運ばなくてもインターネットを活用しての検索や閲覧も将来的に行ってまいりたいと思っております。いずれどのような方法で利用できるかは、逐次、市民の皆さんにお知らせしてまいります。

また、アーカイブズに興味をもっていただき、利用者を増やすことなどを目的として、職員が各学校等を訪問し、出前講座を開催したいと思っておりますので、皆さんの積極的な利用をよろしくお願い申し上げます。

まだまだありますが、いずれ今日の中学生議会は、教育委員会を含めまして、市側のそれぞれの部長、局長を含めまして大変、緊張いたしました。今日、中学生議会で答えたことは、市民に対して答えたことと同じで



ありますので、皆さんの思い、提言、そういったものをしっかり受け止め、実行できるものはしっかり実行して行きたいと考えております。

今日は本当に、長時間に渡りまして、ありがとうございました。

◆ 吉川正一 教育長 記念品の贈呈

記念品をやる前に一言、私の方からごあいさつしたいと思います。本当に中学生議会、私、初めて大仙市の中学生議会に参加させていただきました。緊張したでしょうね。最後、笑顔で活気あるまちづくりという、最後は、笑顔で、終わってほしいと思いますけれども、緊張したという皆さんは？、あまり緊張しなかった。

なかなかこれ3年に1回しかないので、すごくよい経験をしたのではないかなと思います。毎年やっているのは、中学生サミットということで、皆さんも参加している人もいると思いますが、冒頭で市長からもお話あったんですが、キャッチフレーズが「大仙市の未来は私たちがつくる」というようなキャッチフレーズ、まさに、今日はそれを、この場で、我々に提言してくださったのではないかなと思います。我々も非常に大変勉強になりました。話は変わりますが、20年後、皆さんが33歳か4かな、それくらいになっているのかな、その頃、どういった時代になってると思いますか。ある学者がですね、今ある仕事の65パーセント、ちょっと細いですね、まず、6割か7割は、今ある仕事でない仕事になってると、だから4割とか、3割しか残ってないと、どんどん変わって行くんです。でも、この時に、その中で生き抜く、そこで頑張っていく力というのは、何かというと、どの学者も言っています。問題解決能力です。いろんなところに来たとき、自分でなんとかする。いろいろ考えてみる、いろんな知恵を出し合って答えを出していく、その力なんです。

今日は、そういった意味で、皆さんの力が少し発揮できたのではと思います。皆さんから提案あったように、大仙市、人口どんどん減って行って、ちょっと寂しいところもあるんですが、どうか、皆さん中学生の力を、これからどんどん大きくなって、いろんな意味で大仙市を支えて行ってください。今日は本当にありがとうございました。ご苦労様でした。



◆ 中学生議員代表（茂木顕光） お礼の言葉

本日は、栗林市長様を始め、市議会議員の皆様、そして大仙市役所職員の皆様、私達に貴重な機会を与えてくださり、ありがとうございました。これまでの活動を通して、普段なにげなく利用している行政サービスや公共施設などのあり方について、議会において、深い議論がなされていることを実感することができました。様々な世代の人が共存して暮らす大仙市にとって、大仙市全体、あるいは各地域など、広い視野から意見を交わし、市民の生活をよりよくしようという議会の在り方は、とても大切なものだ、改めて感じました。これからも大仙市のために、様々な活動をしてくださっている方々への感



謝の気持ちを忘れず、日々生活して行きたいです。今日のこの経験を生かし、私たち中学生も自分の暮らす地域のために何が出来るかを真剣に考え、今、すべき事に一生懸命努力することで、将来、大仙市を支える一員になりたいと思います。そして、生まれ育った故郷を誇りにして生きていきたいです。本日は、本当にありがとうございました。

